

和歌山高専 69B 50周年同窓会 記念寄稿集

## 阿胡根の浦

「わが欲(ほ)りし 野島(のしま)は見せつ 底深き  
阿胡根(あごね)の浦の 珠(たま)そ拾(ひり)はぬ」



2024年 5月16日 17日  
IN 和高専&白浜

## 表紙の歌【万葉の歌碑めぐり】

和歌山には、万葉集に詠まれている所がたくさんあり、有名なところでは和歌の浦ですが、ほかにも海南藤白、みなべ岩代・鹿島、等々、枚挙にいとまがありません。

表紙の短歌は、万葉集・巻一・歌番号十二に載せられているものです。その歌意は、「私の見たいとおもっていた野島は見せてくださいましたが、底深い阿胡根の浦の珠はまだ拾ってません」  
野島は、現在の和歌山県御坊市名田町野島、海の底の「珠」とは真珠でしょうか。

この歌は、天皇が紀の温泉に出かけられた際に中皇命（なかつすめらのみこと）が詠んだ一首。この時代の人々は真珠などの丸いものに特に強力な霊力が宿ると信じて、それを身に付けることで自身の魂（霊力）を高めることができる（いわゆるタマフリ）と信じていたようです。

逆に、霊力が弱まって魂が身体から離れてしまうことが、病や死の原因とも考えていたようなので、このように自身の魂を活性化させてくれる「玉(たま)」を拾いたいという意味が込められていたのでしょう。

我々も卒業後50年、いよいよ長寿と言われる年代にさしかかってきましたが、皆さんは人生でどのような「珠」を見つけられたのでしょうか？  
この文集にはそのような皆さんの「珠」が、きっとあちらこちらに散りばめられていることと思います。

2024年3月吉日



校章・カラー・  
マーク・校歌



あ え し こ ん じ か の の が の う は か ら ま わ の の め の あ み き お ど よ う ま み あ つ は と な て き が な わ れ く か て



ひ わ や う ん 一 さ と 一 な が が が ま ま ま に に に わ わ こ こ こ ど ど ど ち の か の み い ち



い い い や や や と と と お た も く く く ま ま た な じ く ひ と き お き み さ わ が あ め が あ め あ あ あ あ (F) (F) (F) あ あ あ



あ あ あ わ が ま な び や

一、阿古根の浦の 碧き海  
果てなく広き 汝が姿に  
若人希望 いや遠く  
学業修めむ ああ我が学園

二、煙樹ヶ浜の 翠り松  
常態渝らぬ 汝が姿に  
若人誓願 いや固く  
真理究めむ ああ我が学園

三、日高の川の 湧き水  
流れて息まぬ 汝が姿に  
若人使命 いや重く  
技術磨かむ ああ我が学園



## 電気工学科 6 期生の 50 周年同期会によせて

宮原一典

和歌山高専電気工学科 6 期生の皆さん卒業から 50 年を迎えられ、おめでとうございます。昭和 49 年 3 月 電気工学科を卒業されてそれぞれ自身の人生を形作ってこられました。

50 年前、電気工学科卒業という肩書を持ち 夫々目指す企業の中で頑張っておられました。その間、家族を創り子供を育てて 50 年よく頑張りました。この度、卒業 50 周年を記念して同期会を開催されるとのこと何より喜ばしいことです。

これからの人生にとって、心に残る思い出となる事でしょう。

私にとって、誇らしい 6 期生の皆さんです。



・・・・・・・・ 69Bメンバーと寄稿文 ・・・・・・・・

寄稿者	題 名	ページ
00 宮原 一典	『6期生が社会で活躍していたころの私・・・』	1
01 尼田 信孝	連絡不能…（メール送信、封書発送…返答なし）	
02 生川 豊水	寄稿なし	
03 板場 弘晃	寄稿なし	
04 岩畑 収剛	寄稿なし	
05 上野 則幸	『歩んできた道と更なる歩みを』	2～3
06 小野 博幸	寄稿なし	
07 大津 幸俊	『人生 70 年を迎えて』	4～5
08 大西 佳樹	『感謝』	6～7
09 岡森 孝彦	連絡不能…（メール、住所とも不明）	
10 海堀 明	『青春の日々』	8
11 亀井 浩	『人生はめぐり合わせの積み重ね』	9～13
12 川田 保博	『我が人生DRAMとともに』	14
13 岸本 藤夫	『人間の成長』	15
14 北山 泰久	『卒業してからの私の人生』	16
15 久保 美次	寄稿なし	
16 窪田 真三	『私の47／70年』	17
17 小松 義幸	連絡不能…（メール送信エラー、封書発送…返答なし）	
18 児島 益三	寄稿なし	
19 笹倉 俊男	連絡不能…（メール送信エラー、封書は宛先不明で返送）	
20 新谷 和夫	寄稿なし	
21 高瀬 和正	『高瀬 和正 69 年間のメモワール』	18～23
22 谷本 盛男	『和高専卒業後のサラリーマン人生を振り返る』	24～30
23 津守 孝純	寄稿なし	
24 寺井 孝治	『何とか…何とか…やっとなんと70才（…たな卸し）』	31～37
25 寺下 剛	寄稿なし	
26 中川 明	『私の人生を切り拓いてくれた和高専』	38～42
27 中島 淳	『卒業後の50年とこれから』	43～45
28 中村 隆	連絡不能…（メール送信エラー、封書発送…返答なし）	
29 仁義 武	他 界	
30 西口 幸弘	『和歌山高専の学びから始まった私のキャリア形成』	46～47
31 西山 雅巳	寄稿なし	
32 野田 昭一	『卒業後50年の航跡』	48～50
33 畑中 洋一	他 界	
34 船木 哲司	『半導体と共に生きて』	51～53
35 蒔田 幸靖	『高専時代と社会人で学んだことの思い』	54～57
36 森下 純大	『和高専入学による自分形成とサラリーマン人生、そして今』	58～60
37 森本 博士	『半世紀の人生を追想（入学、就職、そしてリタイア後の生活）』	61～66
38 山下 哲也	連絡不能…（メール、住所とも不明）	
39 弓倉 忠昭	『あれから50年（69B 50周年、記念誌に寄せて）』	67
40 吉井 寿	連絡不能…（メール、住所とも不明）	

## 6期生が社会で活躍していたころの私・・・

宮原 一 典

後輩たちの教育に携わりながら、自分の研修日を利用して、神戸大学工学部の野沢研究室に通い始めました。研究テーマは「半導体の液体冷却に関する研究」でした。その成果は年一回の電気学会への投稿と全国大会での発表であり、毎年開催地を訪れるのが楽しみでした。

昭和61年野沢教授の定年退官により、荒井研究室に移り、新たな研究テーマ「微弱放電光の画像処理に関する研究」を行うことになりました。成果は関連学会への投稿と発表機会を得たことです。

1989年にはアメリカ（ニューオリンズ）で開催されたISH国際学会に参加、1991年にはドリスデン（ドイツ）での国際学会にも参加することができました。アメリカでは学会に参加した後、ニューヨークで中島 淳 君に会い、彼の自宅で宿泊させていただきました。

1995年には、これまでの研究成果が評価されて、神戸大学より「博士（工学）」の学位を授与されました。高齢59才の学位取得でした。

そして2000年3月（平成12年）に63歳で定年を迎えることができました。

平成26年11月3日の文化の日に瑞宝小綬章の叙勲を受けました。これは国家公務員として、永年の貢献があったとの叙勲でした。

現在は87歳です。随分老化してきました。

この度、6期生の皆さんは年齢70歳を迎えられて、記念同窓会を開催されるに際し、記念寄稿集を制作されるとのこと、さぞかし、各自の人生歴が集まり、共に語り合う寄稿集になりますようお願いしています。

## 歩んできた道と更なる歩みを

69B05 上野 則幸

今から 55 年前（昭和 44 年）我々青春時代の入口に、私は中学生になった時から憧れていた高専に晴れて入学でき喜んで御坊の地に行きました。

しかしながら、入学後の寮生活や家族と離れての生活でホームシックに陥り、大変寂しい思いをしたことを思い出します。加えて、当時の状況からは、自分の将来が思い描けず悩んでいました。大変悩んだ結果、漠然と将来は高専、大学の先生になり教育や研究者として進みたいと思うようになりました。当時高専の先生、人生の先輩や両親に相談した結果、3 年で修了し大学、大学院へ進学することを決めました。

目標達成のため 2 年生から下宿し受験勉強を開始した関係でクラスのメンバーと親しくなる機会が少なかった様に思います。その後 2 年間浪人し、大学、大学院を修了しましたが、結果的には高専、大学の先生になる機会がなくパナソニック(株)に入社しました。

34 歳の時には、高専在学中や修了後も大変お世話になっていた宮原先生に高専の先生を募集している事を知らせて頂き、挑戦することを考えたのですが、家族や会社の仕事等を考えると決断できず、大変宮原先生にはご迷惑をお掛けし申し訳なく思っています。

パナソニック(株)では、大学、大学院と光電変換素子の研究をしていた関係で太陽電池の研究開発、事業化にたずさわりました。当時パナソニック(株)はシリコン太陽電池では、シャープ、京セラ、三洋、東芝、日立からは大きく技術力、生産規模も劣っていました。その為、印刷方式Ⅱ-VI族化合物半導体太陽電池（サンセラム）を世界で初めて事業化しました。1980 年代の民生用（特に電卓用）の太陽電池では、世界シェア 30%に一時なりましたが、太陽電池事業部は万年赤字の事業体でした。2000 年には、当時の社長の太陽電池への考え方は「現在、投資にはリスクが高い、拡大する時期が来たら投資する。」とマスコミ等にも宣言していた様に、投資のお願いも含めた中期計画を説明に行きますと「そのまま民生用太陽電池で事業を続けなさい、太陽電池には投資するつもりはない、いつでも太陽電池の時代になれば対応する。」とのコメントでした。部下や後輩には太陽電池に憧れた有為な人材も多くいましたので、彼らの将来も考慮し私（事業の総括責任者）の時代に太陽電池事業を終息することを決断し、その後 2 年間かけてグローバルの顧客にお詫びして終息しました。従業員は、人事部門と相談し他の事業部に引き取ってもらったりしました。従って、現在のパナソニック(株)の太陽電池は、十数年後に買収した三洋電機の太陽電池です。

私の方は、その後 10 年ほどは他の利益率の高い事業部の技術責任者を務め定年しました。豊かな事業部のため楽をさせてもらいました。

定年後、部下や知人が審査員になっていた関係で、JQA で ISO の審査員（品質、環境）を務めています。同時に 40 歳～43 歳に約 3 年間近畿大学、奈良教育大学、兵庫教育大学で企業からの太陽電池特別講師を経験した関係でセミナー講師も務めて来ました。5 年ほど前からは、新人審査員、新人セミナー講師の指導、評価をしています。今後も健康で気力が続く限り当該仕事にて社会へ貢献したいと思っています。

家族関係では、29歳で結婚し娘と息子がいます。娘は昨年、近所に引越して来た為、孫（8歳と5歳の男児）の世話をしています。息子は東京で勤務し、孫は4歳の女兒と今月末出産予定の男児です。息子家族には家内と良く東京へ会いに行っています。

クラスの友人との繋がりには、小野君と大学時代に山陰旅行したことや下宿へ遊びに来てくれたこと、森本君が新婚時代に訪問してくれたこと、関電時代の谷本君から1995年頃に太陽電池の引き合い兼質問をくれたこと等々、また同窓会には、2回程出席させて頂いたことが思い出されます。

振り返りますと、過ぎた日はあっという間の様に思います。高専時代は、青春時代の悩み多き時期であり冒頭で述べた希望や目標に向かって努力していた日々が思い出されます。



## 人生 70年を迎えて

69B07 大津 幸俊

思い返せば、中学3年生の時でしたね。  
高校入試の時期を迎えて、一人の同級生から”和歌山高専の入試が早くあるので一度練習がてらに受験してみないか？”と誘われました。  
私はどちらかといえば商業系が好きで、工業系は全く考えていませんでした。  
どちらかと言えば嫌いな方向だったと思います。  
でもまあ受験の練習には良いかなって軽い気持ちで受験しました。  
我々の年度から一般高校入試日と高専の入学式が同一日になりましたね。  
悩みましたが、高校入試の勉強から解放される事に私の気持ちが負け高専入学を選びました。  
同じ加太中学からは、電気科・高瀬君 機械科・長束君・山下君の4名が一緒だった事も影響しました。  
それが私の人生の岐路になりました。

いざ高専生の生活が始ってみると、最悪の選択だったと思い悩みました。  
本来ならもっと都会で華やかな高校・大学生活を経験できたのに・・・・。  
この世の中から疎外されたような環境で貴重な青春時代を5年間も過ごさないとならないと思うと、又他の高校へ行ってる友達との話を聞いたりすると大変苦しく悲しい思いをしました。  
それでも何とかあきらめずに何とかこの状況を耐えようと思いましたが、耐えきれない時もあり、焦燥感いっぱいの荒んだ生活を送った時期もありました。

毎日 徹夜マージャンをした事もありましたね。  
パチンコに負けて、御坊から名田まで歩いて帰った事もありましたね。  
授業も出席せずに車を乗り回し、遊び放題の生活でもありましたね。

でも悪い事ばかりでもありません。  
そんな荒んだ時期でも、頑張れって励ましてくれた友達もいました。  
荒んだ者同士が互いに励ましあったりする事もありました。

可愛いかった奥様までいただきました。  
22才で二人っきりでハワイの教会で結婚式をあげました。  
翌日、ワイキキの海の中に結婚指輪を落としました。  
どんなに探してもみつきありませんので、良く似た指輪をハワイで購入しました。  
今は二人の息子がそれぞれ木ノ本に住んでいます。  
加太から約10分ほどなので、ちょうど良い距離です。

今となっては、高専生時代は苦しい事も多かったですが大変懐かしく充実した青春時代だったと思います。

何とか社会人になりましたが、1年目はまだ学生時代の悪い習慣が残っており、機械科の羽畑君と一緒に最初の会社は半年で退社しました。  
それからは現在の会社にお世話になり、現在も務めさせていただいております。  
私自身も心を入れ替えて真面目になった？事もありますが、人間関係もよく大変居心地の良い

い会社です。

でもさすがに2023年12月をもって引退しようと思っています。

これからの生き方について

数年前から年に2度ほど旅行に行くことを趣味にしています。

知り合いに旅行好きな夫婦がいて、いつも誘ってくれています。

シンガポール 息子夫婦といきましたが大変感動しました。大変良かったです。  
沖縄 友達夫婦と一緒に 大変良かったです。

その他プチ旅行      ベイコート芦屋      大変良かったです。  
                                 エキシブ有馬離宮      まあまあ良かったです。  
                                 エキシブ八瀬離宮      まあまあ良かったです。  
                                 エキシブ白浜      ぼちぼちかな

体力・気力も衰えてきてますが、旅行は可能なかぎり継続したいと思います。

ギター

65歳から始めましたが、Fコードの壁等が難しく現在休止状態です。  
来年からもう一度挑戦したいと思っています。

ゴルフ

若い頃 何回かコースへ連れってもらったけど才能がなくあきらめました。

スキー

十数年 続けたので少しは滑れました。  
最初はめちゃくちゃ怖かったです。

ガーデニング

昨年より、次男の家の庭（蒔田君の近く）のガーデニングに挑戦しています。  
私がガーデニングをする事に違和感がありますが、挑戦中です。  
植物を育てる事がこんなに難しいとは思いませんでした。

パチンコ

高専生時代からずーと趣味にしてきましたが、さすがにコロナから止めています。  
今までの収支はトントンかな？  
年金生活になるから、もう卒業します。

最後に

みなさん 頑張って長生きしましょう。

## 『感謝』

69B08 大西 佳樹

超低空飛行でかろうじて墜落することなく卒業して50年前に古野電気に就職しました。クラスの半数(16人)は関西で就職し、16人は関東方面に就職して私は山口県に赴任したため、同級生とはほとんど卒業後交流はありませんでした。古野電気は企業研修で岸本君が行った会社で、のんびりした会社と聞いたのと、担任の宮原先生からは海洋電子機器の会社で大手ではないが潰れることはないだろうと聞いて就職をしました。

本社は西宮にありますが、私は山口県に赴任して22年間山口県の下関と萩で暮らしました。

当初は技術職で仕事は船舶の電子機器の修理や工事が主なものでした。決してのんびりした会社ではありませんでしたが、独身時代は出張が多く、多い年は年間250日以上日本各地の漁港や造船所に行ったり漁船に乗っていました。

各地へのお出張では25歳の頃八戸へのお出張時に東京で新谷君や岩畑君と久しぶりに会って居酒屋で一杯飲み懐かしく思った記憶があります。台風で八戸行の夜行列車が運休となって新谷君の家に泊めてもらった事もありました。八戸は9月から12月まで全国の巻き網漁船が、多い時は400隻以上サバを獲るために集まります。機器の修理等をするために若い技術員が集まり会社の寮で過ごします。

毎晩のように繁華街に遊びに行つてはスナック・キャバレー居酒屋をはしごし、夜明け近くまで遊びまわっていました。漁船に機器の修理のための乗船は当初船酔いでダウンしていましたが、何回も船に乗つてると慣れてきて船酔いしなくなりました。でも、台湾沖から日本に帰ってくる途中台風を追っかけられて途中でやり過ぎそうとアンカーを打つて船を停船させていた時にアンカーの鎖が切れて風の吹くまま流されたときは本当に死ぬかという思いもしました。

また、バングラデシュでブラックタイガーを獲る船に乗船した時は違反操業している船を取り締まるために出動してきた海軍の警備船に間違われて威嚇射撃をされて怖い目にあう経験もしました。平穏な時は船で釣りをして5kg以上のカツオを何十匹も釣つたり、何も釣れないのに一日中釣り糸を垂れながらのんびりしていました。船で食べる獲れたてのエビや魚等は料理店で食べるものと比べても抜群に美味しかったです。

15年目に萩にいるとき営業職に代わりましたが、その頃は中国の開放政策の影響で渤海にフグ漁をしていた漁船は廃業する個人船主が多かった時でした。機器を売るところかそれまでの売掛金回収が大変で、廃業した漁船を海外に売船する手伝いなどを懸命にやりました。徐々に自分の性格を相手に受け入れてもらい一緒に酒を飲んだり、麻雀をしたり、パチンコやゴルフに行つたりして遊びながら楽しく営業ができるようになってきました。

43歳で本社に戻つて事業開発室に異動しました。古野電気もその頃業績が厳しくなつて、将来200名以上の余剰人員が見込まれ、新しい事業を模索する部署でした。いろいろ

な会社を訪問し需要を探すのはよかったです、企画書の作成や会社の経営陣にプレゼンするのは自分の不得手な分野でした。約2年で自分のグループの企画が通り国内営業部に戻りました。

45歳から西宮、徳島、田辺営業所で定年退職まで勤めました。山口県では水産会社や個人船主の漁船が主なお客様でしたが、プレジャー船・造船所・海運業者を相手の営業は初めてでしたが常に相手の立場になり、いつも懸命に取り組んできたことで無事定年退職まで過ごすことができました。

30歳で結婚して娘2人と息子1人の5人家族ですが、転勤のたびに全員一緒に各地に移り住んできました。健康面では59歳で脳動脈乖離で2ヶ月近く入院や65歳寸前でステージ4の大腸がんを患い、5年生存率が16%と言われたときはショックでした。

今は毎日晚酌も飲み、たばこもやめられず吸いながら健康に暮らしています。

最後に古希を迎え今まで出会えた人達、同僚、家族には感謝の一言です。今年8月に亡くなった母と妻には一番感謝しています。今後もいつも感謝の心を忘れずに過ごしていきたいと思っています。

## 『青春の日々』

69B10 海堀 明

皆さんお元気ですか。ぼくは脳梗塞もクモ膜下出血も乗り越えて、不死身になったと勝手に思い込んでいます。同窓会詩の知らせを受けて、あの頃を思い出しながら、思いつくまま何首かの短歌らしきものを詠んでみました。誰かに教わったり、ちゃんと勉強した訳ではない素人の言葉遊びなので、作法や文法的におかしいところがあるかもしれませんが、そこは目をつぶって一緒に懐かしんでもらえたらと思います。

人類が 月面に一步印すころ 阿古根ヶ浦に集いし我ら

月に立つ 星条旗に夢はせて キルヒホッフから学び始める

寮の窓 並べたコーラの空き瓶が 宮新でパンに代わる喜び

人波に押された記憶 万博で出会った未来の 中で生きている

髪伸ばし戦争知らぬと歌った日 肩組みし友 みな古希となり

当たり前ヒッチハイクが出来ていた 金のない日を楽しんだ日々

夏の夜 スイカ盗んで飢えしのぐ 尾崎豊に なれない青春

酒タバコ 麻雀パチンコだけじゃない 青春の日は あそこにもあった

パチンコで バス代までもすった日は 『たころう』歌って名田まで歩く

一線で 歩き出して思い知る 低いリテラシー サボった報い

今もなお 浮かぶTVの画面あり よど号あさまミスター引退

最後に、極めて個人的なノスタルジーと悔恨を込めて

(ふる芝の)

ペン

マーちゃんが 卒業祝いにくれた万年筆 五十年の何処かで失くし

以上



## 「人生はめぐり合わせの積み重ね」

69B11 亀井 浩

以前、小泉元総理大臣が「人生色々」とおっしゃいましたが、人それぞれに違った人生がありドラマがあります。

この文集募集は、私の人生を振り返る良き機会となり、企画された幹事の皆様に感謝します。表題のことばは、作家の北方謙三さんが「望郷の道」という小説で、「人生はめぐり合わせの積み重ね」という言葉を登場人物に語らせていましたが、本当に色々な方々とのめぐり合わせで、現在までの道が開けてきたように思います。

私は、だんじり祭りで有名な大阪府岸和田市から和歌山高専に入学しました。中学3年生の担任の先生が、和歌山市在住で、「うちの学校から今まで誰も受けたことがないので、レベルがわからへんけど、公立と私学の間に試験があるから、公立の模擬試験のつもりで受けてみるか？」と勧められて受験することにしました。

電気工学科の児嶋君、土木工学科の川村君と私の三人が受験することになりました。

当時は、70年安保運動華やかりし頃で大学生は角材振り回して機動隊と衝突していましたから、「高校出て大学へ行っても仕方ないなあ」とも思っていました。

「国立やし、高専も良いか」と思ったのも事実です。しかし、問題は、何科を受験するかでした。機械工学科は、油まみれになって臭いしなあ、土木工学科は、炎天下の中、ほこりまみれはいやだなあ。工業化学科は、化学記号の亀の甲が分からないし、薬品の匂いがたまらないしなあ。まあ、電気工学科なら、スマートでキレイそうだし、まあ良いか・・・という消去法で、電気工学科を受験し運良く合格しました。

この時から私の人生は大きく動き出します。授業開始早々、何かの授業を終えて教室に戻ろうと思えば階段を降りかけたら、寺井君に「どこいくんな」と呼び止められ「教室」と答えたら、「教室こっちや」と言われ、迷子にならずにすみしました。

その当時の若者は、無気力、無関心、無責任という、三無主義が横行していたように思います。言い方を変えれば「やる気無し男」です。私もその一人でした。

入学して、何日か過ぎたある月曜日の夕方に、屋根の上にスピーカーを載せた車から「近くの公民館で無料の映画会をするから来なさい。」というアナウンスが流れてきました。

東は、山、西は海、北と南は、スイカ畑、御坊の町まで12キロという陸の孤島のような所で、娯楽といえば、談話室でテレビを見ることぐらいでしたから、「ヒマつぶしにちょっと行ってみるか」という軽い気持ちで行ったところが、背の高い外国人と小柄な日本人の二人のおじさんが暖かく迎えてくれました。

外国人の方は、高専の英会話担当講師でもあった宣教師のフランシス・バーナード・ソーリー先生でした。

日本人の方は、印南バプテストキリスト教会の三ツ橋信昌牧師でした。

集会では、英語の賛美歌を歌い、ムーディー科学院の科学映画を上映していました。初めての集会の印象は、「な〜んや。キリスト教の宣伝映画やな。」という感じでした。しかし、科学映画の内容に興味もあり月に一度の映画会に時々出席しました。

2年生になってからは、同室の1年生3人に「おい、映画観にいくぞ」と言って連れて行くように

なっていました。

そのような時「廢墟の声」という映画を観ました。

旧約聖書の預言が成就する確率はどのくらいあるのか・・・ということをテーマに発掘調査や種々のデータを使ってその確率を計算するというのです。

色々調査して行って、この預言が成就する確率は、何百分の1という確率だと推測します。

さらに、いくつかの預言がすべて成就する確率は、それぞれの確率を掛け合わせるわけですから、もう天文学的数字になるわけです。

要するに、そんなことが出来るのは、神以外にいないということをこの映画は語っていました。

私は、赤ちゃんのころから中学2年生まで、母に連れられ、神道の集会に行っていました。

ですから、この世には、人間が、理解できない超自然的な大いなる力・存在がある・・・ということを感じていました。

この「廢墟の声」という映画を観て、この旧約聖書に書かれている神こそが、本当の神だとその時感じたのです。

その後、私はクリスチャンになりましたが、私の場合は、数学の確率論で聖書の神を信じたと言えます。

私は、神を信じる前と後では、かなり変わったと思います。

それまでの私は「やる気無し男」でしたが、クリスチャンになってからは、色々「チャレンジしよう」という気持ちになりました。

性格もネガティブからポジティブに変わりました。

出席していた印南の教会は、夏は暑く、冬は隙間風が入る寒い会堂でした。

教会には、高専生も何人かいて、夏に合宿をして、「将来俺たちの手で新会堂を建てようじゃないか！」と盛り上がりました。

その時、私は何を思ったのか、「それじゃ俺が図面を描こう」と言ったのです。

卒業研究は、クリスチャンでもある弱電系の瀬戸先生の教室で「論理風向計」の設計製作を行いました。

フォトスイッチを使用し風向がどちらに変わったかアナログからデジタルに変換する装置を開発しました。

先生から、「実用新案特許を申請するか？」と打診されたので、それなりに良い出来だったのかと思います。もっと極めていけば、「駅の自動改札機や色々なものに应用できたのかな。」と思います。

卒業後の進路で悩みましたが、「教会の図面を描くなら、やはり本格的に建築を勉強しないといけない。」と思い、大学進学は、親に負担がかかるので、働きながら定時制のある大学で建築を学ぼうと大阪府庁の採用試験を受験し合格しました。

同時に大学受験もして、大阪工業大学の建築学科に入学しました。

数年後、増改築でしたが、新会堂の図面を描き、学生の時の思いというか夢が一つ実現しました。ボランティアですが、家内が勤務していた幼稚園の改築工事や、現在出席している泉南市の教会の新築工事の設計などをさせていただきました。

府庁に入って数年後、西山君に会いました。

彼も大学で福祉関係の学びをして府庁に入ったということで、土木出身の後輩達との懇親会に誘われ、参加しました。

その後、西山君に彼の奥さまになる女性との出会いのきっかけを提供できたのかなと思います。

府庁では、最初に営繕部局の設備担当課に配属され、府の施設の増改築に係る電気設備の設計・工事監理を担当しました。

同じ係に、山好きの先輩がいて、北アルプスの穂高岳や槍ヶ岳など有名な山々に誘われて登りました。また、山好きのグループで関西一円の山々に登り、今でも時々近郊の山に行くことがあります。

建物を建てる前に以前は、役所に確認申請書というものを提出して審査してもらいます。役所では、「建築主事」という資格をもった人を任命してその審査を行います。

私が、建築指導課にいた時、設備係の上司が二級建築士の資格を持っていて、「亀井よ、お前も二級持っているやろ。おれ、建築主事の試験受けようと思っているんやけど、一人じゃさびしいから、お前も一緒に受けへんか？」というのでお付き合いで受けて合格しました。

当時は、設備職ですから、将来、まさか、建築職の仕事である建築主事に任命されるとは、思ってもいませんでした。

今は、一級建築士を取得して2年以上の実務経験があって初めて受験資格ができるという難しい資格になっています。

その2年後に営繕部局の計画課に異動したのですが、上にはへいこら、下には厳しいという上司と仕事上のトラブルがあって、「早く異動するには、建築職になるしかない」と思い、一般の採用試験の学生に混じって、建築職の採用試験を受けたら運よく合格して建築職に転向することになりました。翌年、建築職1年目に、私の係に新人が配属になりました。

「亀井さん建築職ですよ。一級建築士お持ちなんですか？」と聞かれました。ガビーン！その一言で、「俺は建築職やから、一級建築士ぐらい持ってないといかんわなあ」と思いました。

その年の試験まで3ヶ月。その当時すごく仕事が忙しく、月に100時間ぐらい残業していて、毎日日付が変わるころ帰宅していましたから、勉強らしい勉強も出来ませんでした。何とか、学科に合格して、製図の試験ですが、これも試験まで結局1枚も事前に描くことなく、ぶっつけ本番でした。

しかし、これも運良く合格しました。

その時、家内が、「一生懸命勉強して不合格になった人がかわいそうやわ。お父さんなんか全然勉強してないのに合格して。」と言いましたが、私的には、通勤電車の中とか、電車の待ち時間とかに参考書を読んでいたのが全然勉強していない訳ではないのです。

その時の製図の課題が「小ホールを持つ公民館」だったのですが、春から、仕事で数箇所の府の施設を改修して、府民向けの小ホールを作るマスタープランづくりをしていました。早い話、仕事でしていたことが、そのまま製図の課題のトレーニングになったということです。不思議ですね。

一人のニューフェイスの言葉で一念発起し、仕事そのまま試験勉強になったという訳です。

大阪府と大阪市は毎年人事交流をしていたのですが、建築主事の資格を持っていたことで、阪神淡路大震災の年に大阪府に派遣されて、大阪市の建築主事をすることになりました。

大阪市では、東西南北の4方面があり、西方面担当建築主事となりました。

府から派遣されていた前任者が、仕事のストレスから長期に休むという失態の後に行ったのですが、非常に楽しい2年間でした。丁度ユニバーサルスタジオを建設するというので寸法はヤードインチ、英語で書かれた図面を見せられて相談を受けたり、海の時空館では、フランス人の設計者と通訳を介

してやりとりしたり、JRの東西線の地下駅舎や超高層のホテルとか大阪府では、まず見られない面白い施設の審査をすることができました。

また、後に派遣される東京の財団の会合に年に数回、大阪市代表で出席していました。

大阪府から別の課でしたが、同じく大阪市に派遣されていた上司が私の仕事を覚えていて、7年後、私を東京の財団に派遣する張本人になりました。

大阪市から府庁に戻ってから開発指導課に配属されました。

大手の不動産会社の開発事業は良いのですが、小さな案件で、二束三文の土地が、開発許可が得られれば、お宝になる物件が多々あり、ややこしい方々がよく来られ、その応接に神経を使いました。

その後、営繕部局の設計係長になり、府立大学や府立高等学校などの新・増改築の設計を担当しました。そのようなクリエイティブな仕事を楽しんでいた時、「東京のとある財団法人に出向せよ。」という内示が出ました。

私は、大阪府の職員でしたから、大阪府外に出て行くことなんて想像もしていませんでした。

その財団は、大阪市時代に時々会合で行っていたので、顔見知りの方々も多くおられ疎外感なく溶け込みました。

情報系の財団でしたが、開発したシステムのトラブルもあり私が出向する前から、赤字で青息吐息でした。

部下から出張の同行を頼まれたら、決まって「お詫び行脚」という感じでした。

しかし、2005年に有名な「姉齒（構造計算書偽装）事件」が起こり、急に忙しくなり、事業部長として、新規事業を直接私が指揮することになりました。

おかげさまで、財団も赤字必死の状況から、大幅黒字になりました。

私が東京に来てまもなく1年になろうという時に、娘が「保育士の仕事を止めて福祉の勉強をしたい。東京に良い大学があるので受けたい。」と言い出しました。

試験は水物ですから、ひょっとして合格するかも・・・と思っていたら、社会人編入試験に合格して私のマンションに転がり込んできました。

私は、娘の先駆けとして先に東京に来たのかもしれませんが。

私が東京にいないければ、こういうこともなかったと思います。

出向2年目には、アメリカ出張（会議と視察）でフロリダ、シカゴ等に行くことができました。

一緒に参加した中に、後に大阪に戻った後、勤めることになる民間指定確認検査機関の社長がいました。

東京生活2年で、大阪に戻ったのですが、私が出向していた財団の理事長は非常勤で、別の財団の理事長が兼務していました。

その財団では、「これから、確認検査部門を充実させたい。大阪にも進出したい。」ということで人材を捜していたのです。

私も、長男と二人の娘が大学を卒業して、それぞれ就職も決まり、もう子育ての責任もなくなるし、私のところに時々情報収集にやってくる定年後民間会社に再就職した諸先輩が、現役の頃はバリバリ仕事をしていたのに、再就職した後のやる気のなさを見るにつけ、新しいことをするには、気力体力のまだ残っている時の方が良いのかなと思っていました。

2年間の予行演習がありましたので、東京生活にも全然違和感がありませんでした。

双方の条件があって、その財団に転職することになりました。

丁度、橋本大阪府知事が誕生した直後に府庁を54歳で早期退職することになりました。

その後、かつての先輩、同僚に会うたびに「亀ちゃん良い時に辞めたなあ」とよく言われました。

元々電気設備が専門でしたので、建築士制度の変更で新しく出来た「設備設計一級建築士」の資格を得ることができました。

当時、一級建築士は、全国で約 35 万人いましたが、設備設計一級建築士は、わずかに 2319 人でした。

(ちなみに、令和 4 年の一級建築士は、約 37.5 万人、設備設計一級建築士は、約 5600 人)

財団では、住宅・建築評価センターの確認部長でしたが、2 年後大阪進出のマスタープランを作成し、幹部にプレゼンまでしたのですが、リーマンショックで財団の財政状況が怪しくなり、計画が頓挫してしまい、大阪に戻るチャンスがなくなりました。

そのような時、エレベーターの戸開走行で高校生が亡くなるという事故を受けて、法改正により戸開走行保護装置の大臣認定制度が始まりました。

そして、大臣認定前の性能評価を国から指定された 3 財団で行うことになりました。

センター内で私以外にエレベーターの分かる人材がいなかったので、センター長から「昇降機の性能評価業務を兼務するように」と言われ、担当することになりました。

性能評価では、書類審査だけでなく、工場等での実地試験の立ち会いもあり、関東だけでなく、北九州、兵庫、大阪、愛知などにも行き、国内だけでなく中国、台湾、韓国にも行くことができました。

3 年目の年末にセンター長が不慮の事故で帰らぬ人となり、直後に、台湾の出張から戻ってきたら、理事長から「センター長をやれ」と言われ、急遽センター長、確認部長を兼務することになりました。

もうすぐ 60 歳で定年を迎える頃、そろそろ大阪に帰ろうかと思っていたところ、理事長から「今度、参与（いわゆる執行役員）になってもらう。」と言われ、2 期 4 年、財団通算で 9 年間お世話になりました。

この間、知り合いの他の財団の理事長のカバン持ちでフランス、スペイン、イタリアなどの研修旅行にも行くことができ視野が広がりました。

東京在住時には、国技館で開催されていた、全国高専ロボコンの応援と懇親会に何度か参加しました。

卒業年度や学科が異なっても同じ和歌山高専出身ということで一丸となって応援できました。

中島君の後輩もきていて近況などお聞きしました。

大阪に戻ることが決まり、「さあどうしようか」という時、かつて、アメリカと一緒にいった社長から「来てくれ」ということでお世話になることになり、しばらくのつもりが、今年で 6 年目になりました。その社長も昨年亡くなりましたが、今のところ何とか続いています。

4~5 年前から、自治会のボランティア活動で「草刈り隊」に参加し公園の草刈りを定期的に行っています。また、昨年、ひよんなことから、近所の植木屋さんの大将と仲良くなり、今年の 4 月から、30 坪ほどの畑を借りて野菜づくりに励んでいます。おかげで体重が 2~3 キロ減少しました。

東京にいたころ、練馬区の石神井教会に掲げられていた「過去を想えば感謝 現在においては平安 未来に対しては希望」ということばが忘れられません。

過去を想えば、つらいことや悲しいこともあり、けっして順風満帆だったわけではありません。

しかし、その時には分からなかった、同級生、学校の先生、宣教師、上司、ニューフェイスなど色々な人の言動や色々な出来事が、すべて、今につながっているような気がします。

これから「私や私の家族（妻、三人の子ども、五人の孫）に、そして私にかかわるすべての方々の上にとどのような祝福を神は与えてくださるのだろうか」という期待に胸を膨らませている今日この頃です。



## 我が人生 DRAM とともに

69B12 川田保博

谷本君より電話でこの寄稿文の依頼があり、断り切れずに引き受けることになってしまいました。もとより文章が苦手で、なるべく避けながらこの長い人生を過ごしてきた私です。

高専を選んだのは、父親の健康上の問題とこのことが主な理由になっていると思います。締め切り期限すれすれの言い訳にさせて下さい。

私の人生は半導体、特に DRAM とともにあり、成長してきたと言っても過言ではないと思います。

高専の最後のころ、先生よりこれがこれから世の中を引っ張って行く IC と言う物だと、パッケージを開封した物を見せて頂いたことを記憶しています。

おそらく 7400 だったのでしょ。

就職後、IC テスタ（半導体試験装置）の仕事に就き、IC の重要性を実感しました。その後、特に 1KDRAM : Intel 1103 との出会いが、私の人生に大きな影響を与えました。訳アリでメモリテスタ（メモリ試験装置）の仕事に就いた私は、DRAM と共に成長してきたと言っても過言ではないと思います。

DRAM は 3~4 年に一度 4 倍の容量に成長し、その出荷試験時間もそれ以上の比率で長くなります。

それに使用されるメモリテスタもそれに対応した性能の物が必要とされました。

メモリの成長サイクルに合わせた新製品を開発しデリバリさせるのが私の使命でした。

企業戦士となった私は必死でした。

1 ヶ月 200 時間越えの残業も当たり前、3 時間／日の睡眠時間の日が続きました。

体を壊して入院したこともありました。

DRAM 大国であった日本から争いは世界にひろがり、カリスマ的存在であった先輩の指導のもとガムシャラに働きました。

2003 年、他の種類のテスタにかかわるまで 30 年弱、人生の大部分をこの仕事に従事しました。

DRAM と共にその試験装置も成長し、それに伴い会社も成長しました。

私も人間的に成長したのかどうかは疑問ですが、エンジニアとしては成長したと思います。

高専時代、普段は勉強そっちのけで遊び惚け、試験の時だけ必死で勉強。

徹夜も当たり前。

この時に出来た根性が、私の人生を支えてくれたのではと苦笑いしてしまいます。

反省は家族をかえりみなかったこと。子供にお父さん今度いつくるの？と言われるしまつ。

でも二人の子供もそれなりに成長してくれて有難く思っています。

私の周りは離婚・再婚者だらけ、我慢してくれた家内に感謝しなければと思う今日このごろです。

## 「人間の成長」

69B13 岸本藤夫

高専の4年生の頃だったろうか、就職先について自宅から通勤可能な会社を探している旨を宮原先生に相談したところ、

「そんな狭い社会で一生を過ごしていいのかい？ 日本なんて狭い国なんだから就職先にそのような条件を付ける必要はない。外に出たほうがいろんな人とも接触できるし、より広い視野で物事を見るようになり人間的にも成長できるよ」

との助言を頂いた。そして、この“人間の成長”という言葉がなぜか心の隅にずっとひっかかっていた。

結果的には和歌山にも製鉄所のある住友金属に就職したが、入社と同時に関東の鹿島製鉄所に配属され、61歳で退職するまでその大半を地元とはかけ離れた地で過ごした。

(幸いと言っていいのかどうか、最後の7年余りはたまたま和歌山製鉄所に勤務する偶然に恵まれ、両親の面倒をみることもできた。)

一方、就職して何年か経った頃に、独身寮の管理人さん(元労務畑出身の引退された方)と雑談をしていて、「企業は人間を成長させてくれる、長く居れば居るだけ人間として成長できる・・・」と言われた。

その時にふと、かつて宮原先生のおっしゃった“人間の成長”という言葉思い出した。

退職して10年近く経つ今、この“人間の成長“ということについて常々考えさせられる。“人間の成長”ということの意味の一つは知識や技能、業務スキルの修得・向上といったようなことと、そしてもう一つは精神的な人格の向上や思慮深さ、といった二つがあると思う。

長い企業人生の結果として、前者については多少なりとも成長したかもしれない。

一方、後者については果たしてどうだろうか？

言葉自体の本来の意味はむしろこちらのほうを指すのだろう。そして、それは本人にとって客観的にわかりにくいいうえに、定量的に計る物差しもない。

わが身を振り返ってみると、家庭内では軽はずみな発言や人の話をよく聞いていなかったりして、常々家内から私の言動を注意される。

また、親しい仲間と久しぶりに飲食した時にはすぐに酔っぱらって高歌放吟し、翌日になって、言わずもがなのようなことを言ってしまった・・・としょんぼり反省することしきり。

もう、人生も大詰め段階にさしかかろうというのに、さて一体どれほど“人間として成長”できたものやら？ 宮原先生や企業の大先輩から言われた言葉が胸に突き刺さる。

## 卒業してからの私の人生

69B14 北山 泰久

入社後、和歌山配属となり、しばらく和歌山で仕事をしていましたが、大阪にある光ファイバ関連の新技术を教える研修センターに転勤となりました。

そのころの光ファイバ関連の装置類は高価で、レンタルをしていましたが、それでも十分な訓練ができずにいろいろと試行錯誤をしていました。

その一環でパソコンを使ったシミュレーション装置を作り始めました。

これは自分の提案で誰の助けもなく、夜遅くまでパソコンとにらめっこをして、悪戦苦闘していた時に、本社がパソコンを使用した学習システム（CAI といいます、Computer Assisted Instruction）を作るための検討会を立ち上げ、私にも声がかかりそのチーム加わることとなりました。

時を同じくして運悪く、その時の過労がたたったのか癌にかかり、あと半年から一年の命とお医者様から宣告されました。でも半年は CAI にかかわれると思い、新しく起こした CAI を作成、販売する新会社に出向するために東京に引っ越しました。

東京での私の主治医は、私のかかった癌に関して、世界的に権威のある方で、外国からも飛行機に乗って治療に来ていました。おかげで、私は今も生きています。

CAI の仕事は他企業との共同作業で順調に進みました。日本中を飛び回り、学会で成果を発表する場も与えられ順風満帆でしたが、義理の母がパーキンソン病にかかり、家庭内介護のために和歌山に帰り、仕事もやめました。

（介護施設も保険もなく家庭内介護が当たり前の時代でした）

退社後は会社を立ち上げ、円高の時代でしたので、輸入関連の仕事で香港にも買い付けに行きました。保険の仕事も立ち上げ、建設業の会社も立ち上げました。

ある日、以前いた会社の先輩から仕事を助けてほしいとの電話があり、下請けをする形で通信の設計業務を始めました。これが忙しくて、他の業務はすべてやめることとなりました。

今でもこの仕事は続けています、親会社の社長からは、ずっと仕事を続けてほしい言われていますが、体力が持ちそうにありません。75歳くらいが限界かな、80歳までは無理だろうと思っています。

先はどう生きようかと思い、株式なら体力はいらないということで株式の売買について本格的に取引を始めました。体は動かなくても、ボケを塞いで収入があるようにしようと思っています。

ちなみに株式は30歳の時に同僚に教えてもらい、今に至っています。

今までも、お金の困った時は、どういうわけか株で儲けて幾度となく危機をしのいでいます。

成人病はすべて持っており、医学書を読んではお医者さんと議論しています。地元の病院の先生は私の意見を取り入れてくれて私の納得のいく治療をさせてくれています。この先、趣味でももって、ゆったりとした生活を送りたいと思っている、今日この頃です。良き人生でしたし、これからも皆がよき人生であるように願っています。

## 『私の47／70年』

69B16 窪田真三

私が入社したのはX線を物質に照射して、そこから発生する蛍光X線を計数して物質の成分を分析する装置を設計、製造、販売、修理する従業員200名弱の会社でした。

入社して検査部署に配属され標準品の分析装置の調整、検査を20代後半まで行いました。1ヶ月に2～3台の検査数でしたが装置の構成が客先の測定元素、保証精度によって変わってくるので検査に飽きる事は無かったです。

その後、特注品の検査部署に異動してオンライン装置担当となり鉄鋼関連企業の連続生産ラインに設置する装置の社内検査、現地納入作業を行いました。

鉄鋼関連の現場は冬寒く、夏暑く、今ほど熱中症が叫ばれていませんでしたが冷却用品も無く長袖作業着にヘルメット、脚半を付けて高温多湿の工場内で行う納入作業は最悪でした。出荷前には工場で立会検査を実施して外観寸法、測定精度を確認するのですが、現地に持ち込んでからでない出来ない内容も多く、計画通りに納入作業を完了させることは至難の技でした。新設工場への納入作業は全体の工事期間が長く余裕があるのですが、既設ラインへの納入は工事期間が短く、時には24時間作業となることもあり対応に苦労しました。

磁気テープメーカーの製造ラインに納入する装置もあり、クリーン服着用ですが、空調が完備されているので快適な環境で作業ができるのでオンライン担当者全員が鉄鋼関連の納入は無くなれと願っていましたが、受注されるのは10対1の割合で3K職場の鉄鋼関連の装置でした。

40代前半から鉄鋼メーカーの海外進出に伴い、オンライン装置の輸出が増え海外出張が多くなりました。中国、台湾、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシア、アメリカ、ブラジルの各国に延べ90回以上出張して納入、修理、販売支援を行いました。

海外は国内以上にトラブルも多く、装置間の配線未完、客先責任者が交代して合格していた項目が不合格になる、装置と同梱のパソコンが無くなる、装置の制御盤のロックキーが全て無くなる等、国内では考えられないトラブルもありました。

仕事以外でも、持ち込んだ部品が税関で引っかかり、別室で1時間質問攻めにあいホテルに警官が尋ねて来て身元調査をされ、空港からホテルへのタクシーで通常の3倍の料金をボッタクられたりとトラブルには事欠きませんでした。

食事も見え目や味に慣れるのが大変で、パクチーの匂い、料理の脂っこさ、鶏の足が入ったスープ、ワンプレートにごちゃごちゃ積み上げられる料理、冷えてないビール等…嫌でした。海外出張中、現場には通訳、代理店の人がいるので最後まで日本語以外は話さず外国語は覚えられず話せませんでした。

オンライン装置を納入する国、環境で発生するトラブルも多種多様で解決策を模索して対応し結果を確認することの繰り返しで、客先担当者から叱責されることも何度もありましたが、トラブルが解決できた時、装置が正常に稼働した時の感動が忘れられなくて47年間勤めました。いろんなことがありましたが、楽しかったです。

最後に、有能な上司、同僚、部下と客先がいたから楽しく、自由に製造、納入、出張ができたのかなと70歳になって感じています。私と一緒に仕事をして頂いた皆さんに感謝、感謝です。

## 高瀬 和正 69年間のメモワール



以下の4つの部分に分けて回想致します。

1. 誕生から中学卒業（昭和29年3月4日～昭和44年3月）
2. 和歌山高専の学生時代（昭和44年4月～昭和49年3月）
3. 就職し社会人として柵きんでんの45年間（昭和49年4月～令和元年2月）
4. 退職後の生活（令和元年3月～現在に至る）

### 1. 誕生から中学卒業

和歌山市加太にて父：高瀬国三（特攻隊の生き残りで現在96歳）と母：ひとみ（ナース賞授与看護師、昨年4月92歳で逝去）の長男として生まれ、中学まで加太で育ちました。性格は、おとなしく自分の考えを言えない方で運動は、腎臓炎を小学4年生ぐらいに患った事も関係し、まったくの運動音痴ですが、絵画は二科展等入選するほどの感受性がありました。中学は、軟式テニスが盛んで指導された先生が熱心で市や県、近畿等で入賞をしていました。高校は、何に成りたいという希望もなく受験時期が早い高専を受けようかなという軽い気持ちで受験しましたが、落ちれば和歌山商業を受け、将来は外交官になろうか？夢も描いていましたが、どういう訳か、受験結果は、電気と機械科の補欠での通知が届き、電気に入学を決めました。入試勉強は、あまりしていませんがその時からテスト等については、一夜漬けの癖がついていたのかと思います。加太中学からは私含め4名（テニス部が3名と他1名）が入学し、高専でもテニスをやってやるぞと張り切って希望を抱いていたように思います。但し、高専の部活の実態は、盛んでなく学問第一主義を感じ落胆し、5年間の卒業までの長い間、情緒不安定な時期を過ごした記憶が残っています。その時は、高専に行ってテニスをやるんだという少し違った思いを抱いていた自身を確信しています。

この時、15歳で親元から離れ初めて一人で生活するという寂しい思いをする自分を思ってもみませんでしたし、これから入学してむなしい寮生活へと進んでいくのですが、将来の目標・目的を持っていない私は、虚しさを感じる事となります。（当時は、一緒に入学した方に接すると感じたのは高専を出て・・・になってやるぞと皆さんはしっかりした考えを持っている方が多かったように思いました。）今から思えば、人生如何にこれが大事であったか・・・後悔しております。

### 2. さて、高専の5年間

1～2年は寮生活の先輩1人と新学生3人の4人部屋、3年になって2人部屋で、3年生の途中からは寮を出て祓井戸の農家の納屋に下宿しました。その家主の方は、農家と養鶏場を経営されている老夫婦の方で家賃を交渉する時に月5千円だと話が出た時に私が高いと文句を付けたように記憶していますが、今から思えばなんと安い家賃であったと感謝しております。この建物は、古く手のひら大の土蜘蛛が時々出没しました。その蜘蛛は、シーとかシャーとか音を出して追い払おうとすると、なんと私に向かってくるのです、それもカサカサと足の歩く音を出し素早く向かってきます。これには、



大声をだして逃げて肝を冷やした記憶が残っています。

また、下宿と学校までは自転車か単車（90cc）で通っていましたが、この時の珍しい経験は雨が私を追い越していったことです。風が少し強くなったかなと感じて即、ザーバチャバチャと雨音がしてきたかと思うと道路が濡れてその境目が向こうの方へと進んでいく様には、自然を強く感じました。それと海岸が近かったこともあり、夏になると学校をさぼって「流れ子」でビール等いい思いもしましたが、偶々運悪く親が会いに来ていた時があり「何してんのやお前は！」と叱られた記憶もあります。この下宿には最後まで住まずにご息の方が帰ってくるので出て下さいと言われて次は、南塩屋に引っ越すことになり卒業までそこでお世話になりました。どちらの方にも親切にして頂きましたが、お墓にも参っておりませんが近くを通ることがあれば心で手を合わせています。

1年2年と成績はDでM先生から親が学校まで呼ばれ、この成績ではお宅のお子さんは卒業出来ませんよ！と何度も言われましたが、私はテニスがしたかったのでベベタでも何でもよかったのですが、3年の前期に転機が訪れました。その時に祖父が亡くなり、小さい時からの夢でもあった医者になりたいという気持ちが強く湧いてき、学校を辞めて医学部に行きなおしたいという思いに駆られ前期のテスト（前期、後期の2期制）でしたが、殆どの科目のテストを名前だけ書いて退席しました。家に帰り、親に高専を辞めて医者になりたい思いを打明けましたが、この家にはそんなお金はないわと言われ、それから自分の考えが纏まるには数か月を要しました。何とか卒業して再挑戦しようという考えに至り、気持ちを切り替え後期のテストは、死ぬ思いで頑張りました。2期制ですから満点でも50点しかならず落第となりますが、出席点も考慮して頂き通しで平均62点の成績でなんとか留年せずに進学出来たのは、奇跡にも近かったのかとも思えます。

その後、4年5年はBで何とか卒業出来ました。その時親身に相談に乗って頂いたM先生には、なんと感謝申し上げていいのやら、今日私の人生があるのは先生のお陰です、本当に有難う御座いました。（ほんとうに、この親不孝ものめがと反省致しております。）

5年生となり次の就職先ですが、その時はもう医者になる思いも消えていました。どういうふうにして決めたかと言いますとリクルートの本を見て電気工事会社の一番前のページの会社に社長が和歌山の人で写真がありましたので、それを見てこれやと決めました。私は、性格的に社交性がなく一人を好む方で現場の人間関係等には向いていない人間だと自覚していましたし、それで自分が性格的に向いていない、ヘルメットを被り現場で監督する仕事に就けば、性格も変わるかもという思いで、あかんかったら辞めたらええわとの軽い考えで採用のパンフもなかったのを学校から申し込んで頂き採用試験を受けました。入社テストは藁半紙一枚、出来は半々、その後面接があり受かる気もあまりなかったのを濃い目のサングラスを掛けて落ちてもしゃないなどの思いで臨みました。案の定色眼鏡はなんでやとの質問にスポーツをやっていますので目の保護のために掛けていますと回答しましたが、結果は採用に至りました。その後、入社時の会社幹部の挨拶で（オイルショックの前でしたので次の年の採用は0でしたがその年は350人程度採用）あんたら採用したのは頭の良し悪しでなく体の頑丈な方で選んでおり、有名学校からは採用していない旨の明確なお話があったことを覚えています。

### 3. 近畿電気工事 (きんでん) 入社 ～ 退社までの45年間

社会人となり、二十歳～六十五歳まで45年間なんと早くなんと遅く、思いを言葉で書き表すのは難しく解って頂くことは無理があると思いますが、箇条書き等で自身を表現致します。

入社即、会社は3ヶ月は正社員でなく臨時採用となり、その間色んな教育がなされますが、感じたのは軍隊そのものでした。寮生活で4月にも拘らず6人部屋で窓ガラスは割れ毛布1枚、6時起床、点呼、上半身裸で30分朝からランニングと体操、食事、挨拶、風呂、点呼、10時消灯を繰り返す毎日、その中で食事のご飯のしゃもじは手垢で黒くご飯は団子状態、また風呂には湯がなく足位の湯しか残っておらず、点呼時はグズグズしてると「股を開いて歯を食いしばれ」ピンタの中、ウイスキーを買って部屋に持ち込み飲んでる所へ夜間見回りが来て、蓋のキャップがどこかわからず指先で栓の代わりに用い、この部屋はウイスキー臭いなんでや?との思いでも記憶にあります。中には、1日目で逃げ帰ってしまった方が何人かおられ、舎監がぼろ糞に貶していた記憶があります。うちの会社も昔は、時代錯誤の豪い会社でした。思いは、なんちゅう会社へ入ったんやろか?

初めは、本店採用となり関西電力さんの仕事で変電課に配属され500KV変電所等の建設、和歌山へ戻り架空送電、地中送電、通信、地中配電、そうこうしていると一般の電気工事に従事したくて希望を出して一般工事に移り、和歌山工場花王さんへ、バブル期で色々な工事現場を掛け持ちする。

次に実力もないのに工事課長となるがアクシデントが起こる。組んだ共同企業体の会社が経営悪化し、銀行返済が苦しくなりJV資材金をJVに返さず銀行支払いに廻した結果、これにより当社四億円程度の未回収金の負債が発生する。この時の、請求責任者が工事課長の私であります。今更言っても仕方がないことですが、悔しかったのは誰も私にその時の報告が何ひとつなかったことです。通常は、地方への転勤は1週間前迄に内示があるが、私は3日前の異例内示であり名古屋ということでした。急な内示で異動準備が単身赴任であり大変でした。上記理由については、会社ははっきり明言せず、高瀬君中部支社へ行ってくれるか、これは責任をとる形であり暗黙の了解となる。兵隊さんは、会社員は辛いよね!なんでやねん!とは言えないという感じでした。

中部支社は、初めは桑名でしたが、安全品質保証課の課長で自分から希望し施工部門30人余りの面倒を見たいと申し入れをし、了解頂きましたのでを手配管理する必要がありましたので常滑に施工部の単身寮を改修して寮長となりました。常滑寮は高台の天辺にあり海まで見渡せます。空港建設で月明かりに常滑湾の海でサンドパイプを打つ光景とカーン、カーンという音が単身赴任の身に響き突き刺さる思いでした。和歌山から飛ばされた私は、二度と和歌山には帰れないと皆から言われ上司から念もおされておりました。この様な寂しい思いは二度としたくないですね。

常滑は名古屋から名鉄線で常滑駅は普通車しか止まらないために片道小一時間要したように記憶しています。しかし、毎週金曜日の夜、近鉄特急で帰り、日曜日の夜常滑に行く繰り返しも辛い通勤でした。所要時間が長すぎます。感想、名古屋は遠いわ!

3年ほど名古屋に単身赴任していましたが、家に帰りたいという気持ちが日増しに強くなり、ある日親父に和歌山から大阪本店に帰りたいので副社長の頼んで欲しいとお願いしました。その日は日曜日で常滑寮に入りましたが、月曜日の朝支社へ出勤するとさっそく支社長から呼び出しがありました。

要件は、開口一番副社長から電話があった、帰れる様取計らうので異動出来るよう段取りしなさいとのことでした。(私の親父は、副社長のお兄さんと特攻隊の同期で、また副社長自身も特攻隊とのことを親父から聞いていたのでその関係を使い、すがる思いで父に依頼をお願いした結果、電話を掛けてくれた結果です。)

入社して40年の間(60歳まで)には、何回も会社を辞める“辞めちやるわ”という思いが繰り返し出てきて、その都度行動を起こし、ある時は支店長と3日連続でお話をして頂いたこともあり、最後の結論は「悪いようにはしないので、私に任せ！」で終わりました。引き留めて頂いたのが私があることを自覚しており、辞めていけば路頭に迷っていたかとも思うと、感謝に堪えません。只、私の人生において相談出来る方が何人かおられました。その方の助言通り、会社に対する悪口は一切口に出さず、お世話になった会社に対し、辞めることにより迷惑をお掛けし申し訳ない旨を申し上げたのが良い方に向かったのかなと思っています。(教訓として〇〇が悪いとの話は、前には進まない! 思っても口には絶対出さないかな?)

60~65歳は、60歳からは嘱託となり退職金を現金で受け、給料面は下がりました。仕事は、以前にも3年程本店におり全国の支店支社の安全品質指導検査を行っていましたので、特別教育の実施担当や本店安全品質保証の各支店支社の指導で出張等が多く気楽な旅でした。但し、和歌山からの移動になりますので交通の便が不便でどこに行くのも時間が掛かりましたが、嫁さんは亭主元気で留守がいいで喜んでいました。

このころ、在職中に厚生労働省の関係になりますが中央災害防止協会(中災防)というのがありまして、大阪の河内長野にある中災防教育センターより会社を通じ職長安全衛生責任者RSTトレナーの依頼を受けていましたが、脊柱管狭窄症なり歩行困難(手術を予定)となったために依頼を辞退申し上げていたのですが、64歳ぐらいには手術せずに何とか歩けるようになったので65歳(誕生日が3月)で辞めて、その後ハローワークで9ヶ月ていど失業保険を頂いた後より講師として稼働する旨の了解を頂き、令和元年12月より外部講師として毎年委託契約を頂き現在に至っております。車で橋本から行きますが75歳ぐらいまでは良いですとのことですから体調が許す限り続けたいと望んでおります。若い方(受講生の中にはお年の方もおられます、中には労働基準監督署の所長等も)と接する機会を持てることは、老けるのを防止すると思います。

退職へと進んでいきますが、この時65歳からはどういう人生を描こうかと考えを巡らしていました。その一つは中災防の外部講師が確保されました。また、年金を60歳から受給していましたが初めのうちは、額面通りあったのですがそのうち介護保険料、税金、健康保険料、社会保険等とよくよく計算合計すると130~140万の支払いが発生する勘定になります。今では、年金振込通知便を見るのが怖いほどの支給額が記載されております。皆さんは、どう感じておりますか?

一つここで頭を過る文言がありました。それは、離婚という言葉です。私は、良い夫でなく自分勝手な人間でしたので定年すれば、離婚しますと数年間言われ続けておりました。よって、退職日に嫁さんに話を切り出しました。私は、今まで勝手な夫であったことを認め、変わる変わる努力をすることを認めて頂くようお願いし、後の短い人生を共に辛抱し暮らして欲しいと素直な心をお願いした結

果、まだ喧嘩等する機会は発生していますが堪えてくれています。私も、謝ることが出来るようになり、食器洗いもし、少し変わった自身を自覚している今日この頃ですが、嫁さんは多分変わっていないと思っているでしょうね！。

#### 4. 退職後の生活（令和元年3月～現在に至る）

最初に考えていたことは以下の2つのことでした。両親の墓石の生前建造と遺言状の作成です。何遍も両親に説明し了解してもらおうのですが、その話を確認しようとするとう年で忘れぼけていることもあり、また一からの説明で根気よく行い無事進めることが出来ました。

また、3. 項の終わりの方で解説しましたように令和元年12月より中災防の外部講師として毎年委託契約頂き現在に至っております。退職してから半年以上は講師をするためにパワーポイント、資料等作成するために日々励み今日に至っております。教育終了時、ここで感動することが一つあります。毎回ではないのですが、これで私の講義を終わらせて頂きます。起立礼！このあと受講生からスタンディング・オーベーション（皆起立し拍手をくれること）を受けることがあります。その時の嬉しさはやっていて良かったという思いで感動致します。

この実績が、以前の勤務先であるきんでん大阪支社の幹部の方の耳に入り、特別教育等業務委託講師を依頼されるという結果に結び付き、令和2年6月より実施致しております。これは、大阪支社の教育計画に基づくもので年間27回開催されていますが、コロナの時期は中止となることが多くありましたが、現在は、順調に進めていっております。ここでは、大阪万博のため忙しく社員不足と聞いていますので契約終了予定は、未確認ですが後数年は継続できるのではと思っております。なんとこれら開催日は、午前3時45分起床し通勤しています。（ここでは、上記のスタンディング・オーベーションはないですね！）

これら講義については、実施以前の準備として資料整備と事前リハーサル等で結構毎日ボヤーとはしておらず、パソコンに向かいあっていることが多くあります。なんと Windows 10 と 11 が 2 台づつ装備しています。なんでやと申しますと、以前に前日パソコンが壊れ難儀した経験がありますので、壊れた時の対応準備を万全にしています。ここで、人の前で喋ることが苦手な私でしたが、今では、何とか話が途切れることなく喋っております。関係ないことも喋ったりする、今日この頃であります。

それと、株を手掛けております。毎日、BSテレビで日経新聞関係が朝夕と放送しておりますが、経済の意識も乏しい私には、ゲーム的な感覚でそこに出た企業名・経営内容（収支決算までは詳しく見る知識はないですが）等を調べ、メモをしてヤフーファイナンスに記録し、近々の状況を確認し、YouTube 等を参考にしてなんかかんかで行っております。外国株までは手がでずに、日本株（現在は24銘柄）しか手掛けていませんが退職時付近から入り、あほな失敗等繰り返し儲けることなく現在に至っております。皆さんが言われるトレーダーとはいきませんが、ストップ高等も経験し、億り人……近づこう努力しております。時々、銘柄を調べ、買うか買おまえかと散々することで、時が過ぎるのを忘れることがあります。親父が株をやっていて何一つ教えてもらったことはないのですが、「株は、“最高額で売れ、最低額で買える” ということは出来ないものだということを頭に入れておけ！」

との言葉だけは記憶に残っています。

子供は、長男、長女と2人です。長男は私の自宅の裏に土地を買って家を建て、長女は少し遠いのですが外国の方に嫁ぎ岩出に住んでおります。孫は、男4人女1人の5人です。去年は、母が他界しましたが、コロナ禍で病院に骨折のため入院していたこともあり面会が出来ずに可哀そうな思いをして、もっと親孝行をしてあげたかった後悔が残りました。

いろいろと書きましたが、学生時代は自身の気付かないところが多くあり、皆様にもご迷惑を掛けしているにも拘らず、頭を下げることに気付かず、何やあいつはと思っている方には、これですみませんでしたと言ってもなんの意味もないとは思いますが、お許し願えるのであれば今までのご迷惑をお掛けしたことに對し、お許し下さい。御免なさい。すみませんの人生で終わりたく、よろしく願い致します。有難う御座いました。

69B21 高瀬 和正

## 和高専卒業後のサラリーマン人生を振り返る

69B21 谷本盛男

昭和49年4月1日、関西電力に入社した。新入社員研修後の配属先は、堺港発電所運転課運転係でした。いわゆる、火力発電所のオペレータ3交代勤務。

なぜ、関電を選んだか・・・就職先について考えるようになったのは、4年生の頃から。当初は、弱電系に進もうと思っていた。4年生夏休みの工場実習も日立製作所のコンピュータプログラミング部門を選定。集積回路、コンピューター、OS、アプリケーションプログラム、フォートランといった新規用語に魅力を感じて・・・。しかしながら、工場実習は、全くチンプンカンプン。弱電系、コンピュータは自分には、無理ではないかと考えるようになった。

伝統的な昔ながらの電気工学、強電系に進もうと決心し5年生の5月頃？関電入社試験を受け就職内定となった。電力会社に行くなら、まずは電験3種位は取っておこうと決心。なんとか5年生の間に電験3種合格した。

発電所での運転業務は、補機やボイラー・タービン主機の巡回員を2年経験したが、発電機の巡回員や制御員を経験することなく、技術課という日勤に異動となった。技術課での業務は、燃料の運用であった。原油、重油、LNGを発電所総合S分を公害防止協定内にしながら、どのユニットで何を炊くのかを決定し、運転課に指示する仕事である。全く電気とは関係のない業務を1年近く。何とか電気の仕事につきたいなあ・・・と思いながら・・・電験2種をとったら電気の仕事に変えてくれるのではと・・・必死に勉強して何とか2種を取得したら、今度は転勤の命令。

転勤先は、本店立地環境本部の環境部という部門であった。世の中高度経済成長期、各地で公害問題が発生、火力発電所立地は地元の反対運動でなかなか立地が進まない時代。環境部での業務は、御坊発電所立地計画に係る環境アセスメントの実施である。御坊発電所立地計画も、地元漁業者や和高専教職員の方々の強い反対運動にあっていた。御坊発電所環境アセスを担当する環境計画課は課長以下総勢8名。担当者5名のうち、学卒1名、高専卒2名、高卒2名であったが、高専卒は、和高専2年先輩の工業化学科出身と私の2名。なぜ、和高専ばかり・・・。仕事は、非常にハードで毎日23時退社。毎月の時間外勤務は、100時間～200時間。業務の内容は、アセス図書の国、県の審査への対応と地元説明会への対応である。国の審査は、課長ら役職者が、東京の資源エネルギー庁において、アセス図書を説明、国からの指摘や質問事項をリストアップして本店にFAX。本店に待機している我々担当が、夜間に徹夜して補足説明資料を作成して、早朝の新幹線で東京に持っていく。このような業務が半年間。何とか国の電源開発調整審議会にて承認を得た後、県や地元自治体との公害防止協定も締結し御坊発電所建設着工。確か、私が26歳でした。

次の仕事は、大飯原発3・4号機、赤穂、宮津、南港火力発電所立地計画に伴う環境アセスメント。環境アセス業務は、大気環境への影響予測評価、海域環境（水質や生物、漁業）への影響予測評価。陸域環境（動植物や景観他）への影響予測評価に大別されるが、私の担当は海域環境アセスであった。

春、夏、秋、冬四季にわたる立地予定地周辺海域での潮流、水質、底質、プランクトン、卵稚仔、漁業実態等の現地調査。調査結果をもとに、温排水拡散の水理実験や埋立による潮流変化のシミュレ

ーション、影響予測と評価の実施。全く電気と関係無い仕事であるが、電源立地という大きな使命に携わっているというやりがいを感じていた。また、特に現地調査では環境調査委託会社の社員らと共に、チャーターした漁船に乗船して漁師との会話や民宿（勿論、漁師家族が経営）での漁師との飲み会を重ねるうち、楽しく仕事のできた記憶がある。この時のご縁で、大飯原発のある大飯町大島の民宿へは、毎年カニシーズンに訪ねていき、いまだにお付き合いさせていただいている。

大飯、赤穂、南港、宮津の4地点海域環境アセス業務の中で、私のその後の人生を左右したのが宮津でした。宮津は、昭和40年代に新宮津火力（45万kw 2基）の立地計画があったものの、地元や革新系知事の京都府の反対で中断していた地点。革新系から保守系知事に交代した機会に会社は、改めて立地計画を再構築。京都府行政は、火力発電所と併せて電力中央研究所の分室のような研究所も併設するなら許容できるかも・・・との意向。この流れにのって、会社は宮津エネルギー研究所構想を提案。内容は、火力発電所37.5万KW 2基と風力発電、波力発電の新省エネルギー研究施設や温排水利用研究施設・ミニ水族館も建設するとの構想。

私は、温排水利用研究とミニ水族館の基本構想を策定する業務に携わることになった。発電所温排水は、7℃高いのでこの温排水を利用してマダイやクルマエビ、アワビの幼稚仔を飼育すれば成長が早くメリットがあり、発電所周辺海域に放流すれば漁業振興に貢献できるはず。また、温排水を利用して花卉栽培温室を加温できれば農業振興にも貢献できるはず。発電所の建設に係る計画策定は、社内火力部門に多くの知識経験を保有しているので何ら問題なく進められるが、研究所の計画策定は、誰も経験なく戸惑ったものであった。風力、波力等新省エネ関係の研究構想は、社内の総合技術研究所が担当し、温排水利用研究・ミニ水族館は立地環境部門の環境部が担当し、私が主担当者になった。コンサルに構想策定委託をしたり、温水養魚協会や海南市にある和歌山県立自然博物館の指導助言を得たり、兎に角、手探りで業務であった。宮津火力の環境アセスメントの進捗に併せて何とか研究所基本計画の取り纏めを完了し、住民説明会や宮津市、京都府、資源エネルギー庁の審査を通過し建設着工に漕ぎつけた。社内に火力発電所と研究施設を建設するための宮津エネルギー研究所建設準備所、その後宮津エネルギー研究所建設所という組織が発足。温排水利用研究施設とミニ水族館を建設するために、環境部から担当者1名異動することとなった。職場のムード、業務流れから私が建設所に行くべきかなーと感じていたところ、当時の上司から、「建設終わったら環境部に戻す」という口約束を得て、私が建設所に異動することになった。建設は約3年、3年後には、また会社の中核組織である本店環境部でやりがいのある仕事に戻れるだろうという思いで宮津エネルギー研究所建設所に赴任。入社12年、32歳であった。

建設所での業務は、温排水利用施設とミニ水族館の実施設計、そして施工管理業務であった。高専で学んだ電気の知識等も生かした仕事で楽しくやりがいもあった。約3年にわたる建設工事も順調に推移。37.5万kw2基の発電所は試運転開始、併設の新省エネ研究施設、私が担当した温排水利用研究施設・ミニ水族館も試験運用を開始。そろそろ建設所を閉鎖し、新たに発足する発電設備と研究施設を運用する研究所の組織に移行しようとする時期、私は上司から「引き続き研究所に残って温排水利用研究とミニ水族館の運営に従事してくれ。研究所となる新組織からどうしてもお前が必要やと言われている・・・」と言われた。建設終われば本店環境部に戻すと言われていたのに・・・非常にショックであった。本店と現場業務機関、平社員にとってはやはり処遇ややりがい面で相違があり

ます。しかし、くよくよしててもしょうがない。ミニ水族館も京都府で初めての水族館ということや、全国的にも大阪市内の海遊館営業開始を機会に水族館ブーム到来。発電所に併設するPR館としては、入場者数年間35万人、運開初年で国内1位となった。

京都府知事からもミニ水族館のミニを取っては・・・との発言もあって、発電設備に併設する研究施設全体を丹後魚知館に名称変更。水族館に展示する魚の入手ルート等の開拓では、地元宮津や、福井大飯原発周辺の漁師との交流を通じて非常に楽しく過ごした。そのうちに、自分の意識・考えに変化が生じた。「関電社内に電気屋は掃くほどのいる。しかし、魚屋はいない。電気屋でトップにはなれないが、魚屋ではトップになれるかも【笑】・・・これからはこっちの方向で社内を生きようと・・・吹っ切れました。また、魚知館は動物園水族館協会に加盟していたので毎年協会の総会に私も出席。協会の名誉総裁である秋篠宮殿下と総会後の懇親会で会食懇談も経験。休憩時間には、秋篠宮と新居で飼育されているというなまずに関して私からも質問するなど会話がはずみ、秋篠宮が手に持った灰皿に、私が吸っていたたばこの灰をポンポンと・・・とんでもない経験もできた(笑)・・・

専門的知識習得の目的もあって、宮津エネルギー研究所在職中に、水産学会に加入、4級小型船舶操縦士の資格も取得。休日には、日本海若狭のチヌ釣りにもハマってしまい楽しい時期ではあったが、正月に郷里田辺に帰省した時には、親父から、「関電で魚屋の仕事とは・・・何やってんだ・・・田辺の営業所に返ってこい。」と嘆かれたものである。

宮津エネルギー研究所で3年勤務経過した頃、以前在職していた本店立地環境本部環境部に転勤することになった。私が39歳、平社員から係長クラスへの昇進。関電の中で高専卒としては早くもなく遅くもなく平均的昇進だった。和歌山県御坊市内に、御坊第二火力発電所(オリマルジョンを燃料とする110万kw 4基、建設費約1兆円)を建設する計画の環境アセスを担当することになった。そして和歌山市内住金埋立地に370万kwのLNG火力を建設する計画も同時進行。世の中、バブル崩壊して大不況。景気対策として利用されていたのかも……。環境アセスの中でやはり、知識経験が生かせる海域環境アセスを担当。環境アセスの漁業者への説明会等へは、漁業補償を担当する立地部門の社員と同行、説明会の前座を担当させられた。

日本海宮津・大飯での漁師との付き合い経験、水産学会の会員、水族館運営管理経験、船舶免許等これまでの知識経験をフルに活用した仕事で楽しかった。御坊第二火力計画に対する地元漁業者の反対運動はあまりなかった。既設御坊発電所180万kwの漁業補償実績とこれまでの運転に伴う漁業影響の実感。御坊第二440万kwの漁業補償額を予想していたのではないかと……。

ところが、田辺市周辺の梅農家から梅問題が提起された。当時田辺市周辺の梅畑で原因不明の梅枯れが発生しており、この原因が御坊発電所の排煙による大気汚染影響であるとの指摘。

御坊第二計画を進めるうえでは、この梅問題は避けて通れない。会社も梅枯れと御坊発電所排煙との関係を究明するため数億円をかけて研究した。梅畑での大気環境濃度測定、発電所煙突からの排煙にトレーサー物質を注入して和歌山県下でのトレーサー物質の希釈率の実測等。これらの調査データを第三者的に解析するため、広島大学の先生や環境学会会長、電力中央研究所、紀南農協、関電で梅研究会を発足。費用は関電が負担し、原因究明に取り組んだ。しかしながら、御坊発電所と梅枯れの関係は明確にならなかった。国が定める大気環境基準の半分程度の大気環境である中で、梅枯れなどあるはずがない、梅が枯れるならもっと先に野菜に影響があるはず・・・との思いを日々感じていた……。私見であるが、発電所立地では、埋立による漁場消滅と温排水影響による地元漁業者への影響補償は



ある。しかしながら、農業者への補償はない。この辺りを鑑みた農業者の方々の反対運動であったのではと・・・

梅問題もあるなかで、県、国の環境審査を通過して電源開発調整審議会でも御坊第二火力440万kw建設が承認された。同時に和歌山火力370万kwも承認された。

御坊第二環境アセスのあとは建設である。私が46歳の時、御坊第二火力建設所の環境課長いわゆる特別管理職として御坊に赴任した。そして、この機会に出身地田辺に自宅を建てることとした。埋立工事その後のプラント建設を考えると10年近い工期が予想されるので、郷里田辺を永住の地にすることにした。そしてそのことに幸せを感じた。

環境課長の仕事は、簡単にいうと、建設工事に伴う環境対策、アセスでお約束した通り遵守しているかどうかチェック、行政への定期的な報告、周辺関係漁協や地元自治会との良好な関係維持。電気とは全く関係の無い業務であるが、この頃には、そのあたりに関して意識しなくなっていた。特別管理職は、専門的知識よりもマネージメント。上司、部下、行政、関係団体と良好な関係の構築・維持が、最も大切な仕事であり、楽しく仕事できた。

しかしながら、この幸せ・楽しさは長く続かなかった、世の中が、電力事業の自由化の動き、オリマルジョン輸出国ベネズエラの政情不安等のため、会社は、御坊第二火力建設中止を決定。また、社内ではリストラの動き。中高年社員への早期退職勧奨の動きが出てきた。そんな中、転勤の辞令・・・大阪発電所の計画課長を命じるとの事・・・。当時の大阪発電所は、15万6千kw級4基で昭和30年代に運開した老朽化火力の最後のプラント。当時50歳であった。

着任したら、発電所廃止に向けたタンク残油の焼き切り運転を始めるとの事。職務は、発電所の運営に係る技術・庶務の総轄ではあるが、廃止を視野に発電所所員の配置転換や退職勧奨に関する業務がメインである。当時の大阪発電所には、それまで廃止されてきた発電所から配置転換されてきた方が多く、発電所が無くなっていく中で、引き続き火力部門に留まるのは難しい人が多かった。社内的、人事労務的業務で楽しくない仕事であったが、1年半経過後、転勤の命令・・・転勤先は本店環境室、私が新入社員で配属された堺港発電所の設備更新アセス。25万kw8基の汽力プラントを廃止して40万kw5基の最新鋭コンバインドサイクル発電への建替えに係る環境アセス業務である。3度目の本店環境部門。馴染みのある仕事に戻れたという安堵であった。

堺港発電所設備更新アセスは、新設火力発電所のアセスのように地域に環境負荷を増大するのではなく、更新後は、大気汚染物質・水質汚濁物質・温排水等が現状より削減されるので、行政や地元関係者との合意形成に難しいものではなく、淡々と法令に基く手続を進められた。むしろ、なんで環境アセスをしないとダメなのか・・・との思いもしたものである。約3年にわたるアセス手続きの後、私に転勤命令・・・堺港発電所設備更新建設所の品質管理課長・・・。アセス後の現場建設業務への転勤は、宮津、御坊第二に続いて3度目であった。確か53歳。

しかしながら、品質管理業務なんて私には適していないだろうと思った。品質管理業務は火力部門の技術総轄的社内向け業務がメイン。自分がこれまで歩んできた道は立地環境部門で社外の対外折衝的業務。なんでこんな転勤となったのか分かってきた。火力部門で堺港設備更新建設業務従事者の中で必要となる第二種電気主任技術者免状を持っている特別管理職がいなかった。さらに建設初期は電

気事業法に基づく工事計画届出手続きとか地元行政・地域対応業務が主であり大して電気技術の専門的技術は不要である。案の定、建設始まって2年後、私に転勤命令。当時、建設所の電気係長で第二種電気主任技術者免状を持っていた方が建設所電気課長に昇進。同時に電気主任技術者の交代と私の海南発電所計画課長への転勤。私が55歳であった。

ただ、私の家内が亡くなって2年経過し、単身赴任の私に代わって爺さん婆さんに世話してもらっていた子供らも高校生と中学生となっていて、会社は私の家庭事情を配慮してくれた人事異動だったかもしれない。

着任した海南発電所も昭和40年代に運転開始しているので老朽火力である。稼働率も低く、将来の廃止も視野に向けた発電所運用で技術的課題対応より、今後の人事的・配転課題が主な仕事であった。着任して2年になるかどうかの頃、会社から私に対し、火力部門関係の子会社に出向しないかと・・・出向したら定年退職後も65歳位まで雇用は約束できると・・・。少し悩んだが、会社に対して。「火力部門の業務経験が少ないので出向してもあまり会社の為に貢献できないのではないと思う・・・60歳まで関電本体での雇用を望むときっぱり回答。

当時、会社では55歳前後で関係会社への出向勧奨が一般的であった。ただ、出向した後、出向先で業務内容やプロパーの社員の方と人間関係が上手くいかず、1～2年で退職してしまうという事例も散見される状況であった。私は、60歳まで関電本体での勤務を選択し、定年後については、これから考えていこうと判断した・・・。

暫くして、会社から立地部門への異動打診があり、私は喜んで快諾した。火力部門という技術的な業務ではなく、対外的・人を相手にする業務の方が経験的にも楽しいものであると思った。

着任した立地部和歌山班御坊駐在での仕事は、漁協対応業務であった。日高郡下由良町から南部町までの由良町漁協、紀州日高漁協、三尾漁協を相手に、原子力関連施設具体的には使用済み核燃料中間貯蔵施設の立地に向けた合意形成に係る業務である。

業務内容は、特に上司から指示されるような事はなく、兎に角漁協幹部と友好的関係の構築のために自由に活動していいというもの・・・。定期的な夜の懇親会も実施した。また、宮津の魚知館とタイアップして、紀州日高漁協管内の大引地区で営まれている小型定置網で漁獲される生きたイワシを全国の水族館への活魚販売を提案。海遊館とか韓国で開催された海洋博の水族館へイワシ活魚の販売も実現した。多少ながら漁協支援に貢献もでき楽しく仕事できた。そんな中で、60歳定年退職後のことについて、漁業関係に従事したいという気が強くなってきた。船、マイボートももちたいという気になり印南の漁業者からの紹介で50万円で船を購入。そして、定年退職後は、南部町で棒受網漁業を営んでいる親戚の漁師の手伝いをする計画を立てていた。

そんな中、定年退職半年位前、社内知人から退職後にメガソーラ電気主任技術者は如何との誘いを頂いた。大阪のテス・エンジニアリングという会社が、静岡県掛川に自社のメガソーラを建設する計画があり第二種電気主任技術者免状を持っている者を探しているとの事・・・。メガソーラは、システム的には、太陽電池、直流集電、パワコン、昇圧トランスで構成され比較的単純な機器構成。何より、危険物なし、回転機器なし。色んな意味で、リスクは少ないと判断し引き受ける事とした。

60歳で関電定年退職。テス・エンジニアリングの会社から、静岡県掛川市にアパートを借りて頂いて、そこから発電所サイトに出向くこととなった。会社自体、コジェネの専門会社であり技術力も高く、単に社内に有資格者が無いので私を採用したというもので、勤務的にもうまく運用して貰えた。1年位経過した時、静岡県下で第2種免状を持っている中部電力OBの方が見つかったとの事で、私は身を引く事とし、テス・エンジニアリングを退職した。ちょうどその頃に、周参見町の知人から、旭電業という岡山市内の会社が周参見にメガソーラを建設するにあたり、第2種免状を持っている者を探しているという事で、私に打診があり受けることとし、現在に至ってる。メガソーラの仕事内容については、工事着工前には、工事計画、保安規定、電気主任術者選任届出等の国への手続、着工後は、保安規定に基く毎週1回の現場確認、使用前自主検査の計画と実施、国の安全管理審査受審、営業運転開始後は、保安規定に基く毎月1回の巡視点検、トラブル発生時には発電所に出向いての現場対応、機器年次点検での保安監督等であり、特段の負担感もなく比較的やりがいのある仕事だと感じている。

また、関電退職後に予定していた漁師仕事に関しては、棒受網を営んでいた親戚の漁師が体を悪くして廃業したため、叶えなかったが、田辺市内の漁師町磯間に住んでいる同級生から、シラス漁の乗組員にならないかとの誘いがあり、和歌山南漁協湊浦支所所属のシラス漁パッチ網漁船一丸の乗組員になった。唯、一丸が暫くして廃業となったため、浦鷹丸から誘いがあり現在もシラス漁の乗組員をやっている。早朝6時から7時に出港9時頃帰港して船上で皆と朝飯を食べる。おかずは、獲れたての生シラス、釜揚げシラス、混獲したマダイやアジ等の刺身。魚好きとしてはこたえられない時間である。

これからも体力が続く限り、シラス漁師をやりながらメガソーラ電気主任の仕事継続したいと考えている。

和高専卒業後のサラリーマン人生、総轄すると、「電気の仕事我希望して入社したが、その業務・道には進めなかった。戸惑いや悩みも感じながら仕事を継続していく中で、やりがいや楽しさも見出せた。そして、発想の転換をした結果、新しい道が開けていき、より楽しく仕事できたような気がする。なお、電験2種の国家資格を取得していた事は、退職後の生活に大変有効であった。

働き方改革、成長産業への労働力流動化が叫ばれている昨今、和高専現役学生や入社もない社会人にとって、入社後退職まで同じ会社で勤め上げることはないかもしれないが、こんな時代あったのか・・・との理解でご笑納頂ければ幸いです。長文のお付き合いありがとうございました。

最後に、ここ数年、ネットでの株取引にはまっています。いわゆるデイトレーダー？ 400万円の資金をもとに、毎日毎日スマホでの株売買。20~30銘柄持っていて、日々入れ替えながら兎に角益が出たら売って、それをもとに新たに株購入。1日数百円~数千円の益ですが、塵も積もれば山となる、年30~50万円の株式口座資産残高が増えています。ボケ防止と暇潰しに最適ですので、同級生皆さまにお勧めいたします。

以上

更に追伸

私の関電サラリーマン人生で最も思い出深い宮津エネルギー研究所の丹後魚知館が、令和5年5月末で閉館となりました。当事業所の火力発電所75万Kwは、平成14年に長期計画停止運用（実態は発電所として稼働しない事実上の稼働停止状態）になってからも約20年間、水族館併設の関電PR施設として運営されていましたものが、ウクライナ危機を契機とする収益悪化等に起因する経営環境の変化で、電気事業法上の発電所廃止となったことに併せて、丹後魚知館も閉館。残念なことではありますが、6月5日に宮津市内のダイワロイヤルホテルにて、閉館に伴うイベントを開催。魚知館の建設や運営、管理に携わった方々や展示魚の収集に協力頂いた地元漁師の方々、国内20数館の水族館関係者等総勢80名のご参集を頂いて盛大に閉館イベントを開催、私はイベント発起人の代表として開会のご挨拶させていただきました。まさに、サラリーマン人生の締めくくり的なイベントで楽しく過ごしました。

これからも、体が動く限りシラス漁等さかなを中心とした人生をすごしたいと考えてます。

以上

# 何とか…何とか…やっと70歳 (これまでのたな卸し)

69B24 寺井孝治

## 雑賀崎から和高専へ

和歌山の漁師町（雑賀崎）で生まれて直ぐに父の大怪我（脊髄損傷）と母の闘病（看病疲れ）で長い間親戚や知人の家で世話になったそうだが、その後の親子3人の生活は貧乏生活の悲哀を一切感じることなく周囲の皆さんの優しさを感じながら幼少期を過ごすことができた。

厳しい母親のしつけのお陰で、雑賀崎小学校を優等生？（3年生の時、ジャングルジムと喧嘩して前歯欠損…）で何とか卒業、西浜中学校は「普通」の成績で卒業して高専を受験し、補欠スレスレで何とか合格、初めて親元を離れて緊張120%の寮生活を開始した。（入寮・別れ際の母の涙は今も瞼に…）

寮と学校の往復の日々は皆に付いていくのがやっとで、全寮制の2年間はあっという間に過ぎた。1年生では「感染防止のトラ部屋での隔離生活」、2年では「タバコと酒」を覚えた事が微かに記憶の隅に…3年になると行儀の悪い学生は寮を追放される…との噂（流れ）に従い、寮を出て下宿生活を始めた。3,000円/月の下宿は4.5帖の4室雑居建屋で「I㍻」、「K㍻」、「T㍻」との半同居・自炊生活で、インスタントラーメンやカレー中心の食生活ながら、朝礼・点呼・掃除に縛られない開放感と生まれて初めての「自分の部屋」…大いに満足感を味わいながら自由な時を過ごした。

「松原」で下宿代を負けてしまい、実家（雑賀崎）まで往復して母に下宿代を強請（ねだ）りに行った事、徹夜麻雀で授業をサボって代返で助けて貰った事、試験が近づいても麻雀に明け暮れて前日の一夜潰けで何とか凌いだ事…が今も脳裏に…。それらの経験は信念のないその場凌ぎの性格がそのまま日常に現れていた様に思う。しかし、そんな集団生活の経験がその後の会社生活に必要な接客能力や課題克服に必要な粘り強さを養い、会社生活に大いに役立った…と無理やりこじつけて正当化し、決して自慢できない当時の生きざまを思い返しながら…まず反省!?

## 胃腸の弱い社会人へ

徹夜麻雀とインスタントラーメン中心の食生活が祟って、4年生の秋に「下血」顔面蒼白（十二指腸潰瘍による下血）で「日赤」に入院し「落第」も覚悟したが、約1カ月で退院して下宿生活を再開。直後の期末テストでは皆さん（同期の桜）の絶大なご支援を受けて初めての大病を凌ぐことができた。5年生は少しか真面目な学生生活？に戻って何とか卒業し、学校推薦の力で関電へ入社。何とか…社会人としての歩みを開始できた。

入社後3カ月の新入社員教育を経て、初めての職場は海南発電所の3交代（当直）勤務…1直（08時～16時）／2直（16時～22時）／3直（22時～08時）の8日サイクル。

自分の時間が沢山できたので勉強…ではなく、高専時代に覚えたパチンコと麻雀を通じて先輩方にも可愛がられて有頂天になり…三交代勤務で疲れた体を休めることもせず、どんな誘いも断ることなく身の丈を超えた会社生活を謳歌した。そんな生活に古傷が反応して**十二指腸潰瘍**がキバを剥く。

前夜の麻雀で疲れた状態で参加した当直D班の「生石ハイキング」での出来事…、山頂付近で青ざめて倒れ病院直行（島外科へ入院）戦線離脱（初めての欠勤）となり、当時の当直係長から『寺井君は夜更かしが多い様です。自粛が必要…!』と母が**苦言**を受けて親不孝…。退院後、当直から業務係（日勤）に異動して半年間「燃料管理業務」に従事し再び当直3交代に戻った。徹夜麻雀は少し控えて何とか交代勤務にも慣れ当直勤務を約2年間勤めて、技術課計測係（日勤）へ異動となった。

## 異動と入院の繰返し

技術課計測係は「タービン班」「ボイラ班」「ABC班」の3グループに分かれ発電所全体の監視・制御機器の保守業務（故障対応と事前保守；設備更新や改修）を担当して、好景気全盛時は数億の工事を任されることもあり、工事仕様書作成／見積発注／工場試験立合い／施工管理／完成検査等、神経をすり減らして緊張する機会も多く、気力・体力充実……にも拘わらず**3回目の十二指腸潰瘍（再発）**が……発電所のトイレで真っ黒な便（タール便）を見て、翌日和医大へ行くと直ぐに入院となり、**またもや戦線離脱…**

皆さんからのお見舞い（週刊誌、エロ雑誌等）を沢山いただき贅沢な闘病生活で…和医大を1カ月で退院し、職場復帰すると「係内の予算差引業務」を任せられ、班長直下で工事計画や予算獲得の仕組みに触れながら体調回復に専念させて頂いた。……当時はソフトボールが盛んで、昼休みは汗だくになって走る（健康的な）生活リズムも身について直ぐに体調は回復し、先輩の誘いで麻雀大会にも時々参加する様になって、協力会社の皆さんとの接し方やメーカー工場試験立会（出張）時のスタンス等、業務だけでなく、酒の嗜み方やスナックでの振舞い等、会社生活に必要な種々のノウハウを丁寧にご指導頂いた。

発電所の計装保守業務を3年経験した後、26才で次職場へ異動…仕事は難しくなる一方だった。次職場の和歌山支店火力課は、B（ボイラ）T（タービン）E（電気）M（計測；現在は計装）の4職種の担当が1人ずつ配置され発電所の保守業務全体を総括する保守チームと燃料管理や調査運營業務を総括する運用チームで構成された総勢15名の技術集団で、前任者（T内判）の交代要員として着任した。初めての仕事が「バーナ自動制御装置」の劣化更新であった。製造中止設備の取替工事で今思えば難しい工事ではないが、予算規模も大きく26才の新人には全てが初めての経験であり、メーカー技師や先輩方を交えた会議（打合せ）の進行、メーカー工場への受入れ試験立会等、緊張の日々が目まぐるしく過ぎていった。

その後「大気環境計器の劣化更新」「タンクヤード監視TVシステム新設」「燃料受入れ設備監視システム新設」等、多数の設備工事を経験し、火力設備保守に必要な知見を深めることができた。

仕事以外でもバッタスキーやゴルフ、コーラス等にも楽しく仲間入りさせて頂き、会社生活で最も輝いた時期（30才）に妻と出会い「太田の新婚社宅」に入居し、長女を授かることができた。

少し戻るが……和歌山支店に異動して初めての設備工事が竣工した頃に「デミング賞」受審に向けた全社一丸の取組みが始まった。業務の定量評価やルールに沿った業務の全面見直しが必要となり、故障対策検討時の要因分析や対策系統図等、データ整理時は分散分析・相関分析等、統計手法を活用しないと仕事が進まない時代がしばらく続いた。統計手法の本を片手に標準偏差を算出するたびにσ付き電卓に感謝して、高専の授業をサボった自身の基礎知識の低さ…に反省しきり。

デミング賞審査準備や他発電所・本店との情報交換も軌道に乗った頃には帰宅時間も遅くなり、先輩方との麻雀やスナック通いも重なってストレスもピークに達し…**4回目の十二指腸潰瘍…**

伊奈胃腸科で出血部位を応急処置（止血剤流布）後、会社医務室でO先生の血管注射（30本）を受け、仕事を続けながら治癒（復活）することができた。その後はO先生には一切逆らえず、誘われるまま支店コーラス部へ入部し、放課後は和支自慢のギャルと一緒に腹式呼吸と発声練習の日々…お陰で全社最優秀賞受賞メンバーの一人として祝杯も経験させて頂いた。コーラス部とスナックでの熱唱が、仕事で溜まったストレス発散と健康維持に効果大で、O先生やMさんを中心とした優しい女性陣、酒の飲み方を教えてくれた先輩方（亡きT内判とT花判そして存命のU窓判）に今も感謝している。

## 和歌山から大阪・西宮へ

和歌山支店の7年間で最も記憶に残った仕事は既設火力機の高頻度起動停止対策工事である。ベース運用からミドル運用へ脱皮を図るもので、DSS (Daily Startup and Shutdown) 運用に耐えられる様に本体設備の弱点部位を補強すると共に、主要制御装置 (ABC ; ボイラー制御、ATSC ; タービン制御、ABNC ; パナ制御) に高度な制御機能 (予測制御、寿命評価等) を組込んで、DSS 運用の諸課題を解消していく全社的な一大プロジェクトであり、事前にメーカーとの共同研究で基本設計と予算編成を終え、支店・発電所は詳細設計～発注～施工～評価の業務が割当てられた。重電メーカー各社と発電所各課を取り纏める事務局として約3年に亘る一連の工事を無事竣工し、DSS 運用を開始できた時の嬉しさは格別で、今も脳裏に居座っている。

この頃から残業も多くなり帰りの遅い日々が続き、飲む機会も多くなって家族サービスも手抜きが増えたと思うが、家に帰って見る妻子の笑顔がいつも元気の源になっていた。

昭和59年秋には御坊発電所も運用開始し、和歌山支店所管の火力機は7機 (出力3,900 MW) の大容量発電所を抱える重要支店になり…その制御装置保守を担う大役にも慣れ…一人娘も元気に育った頃、次職場への異動が決まった。

## 激務に耐えて

次職場は本店火力保修課で、全火力発電所の年度予算や大型設備工事計画、研究課題への取組みを各職能 (B, T, E, M) で統括・実践する業務だが、日々役員から投げ掛けられる課題の処理が最優先であり、定例業務で手一杯の状態に加えて日々夫々の課題が割当てられ、毎日23時過ぎまで聞いても処理できず、休日出勤や自宅持ち帰りで処理する事が罷り (まかり) 通る時代であった。

着任早々から23時過ぎまで勤め、両度町の社宅までタクシー (チケット利用) で帰って、翌朝は通勤ラッシュを避けて早朝の阪急電車…妻子の寝顔を見て早朝に出勤するので休日以外はゆっくり話す時間も無いのが日常。そんな激務の中、待ち望んでいた次女が生まれた。

二人目の天使降臨でひと時の平和な日々感謝！ そんな平和も束の間で、長女 (4才) と次女 (0才) の世話は一切妻に任せて仕事に専念する日々が暫く続いた頃、**5回目の十二指腸潰瘍**を再発…中之島本店ビル6F (狭い) トイレで「ターム便」を見た時には目の前が真っ暗になった。

医務室に行くとそのまま関電病院へ…貧血で直ぐに入院となり約1カ月の闘病…慣れない都会で長女を連れて見舞ってくれる妻の有り難さに申し訳なく…生活パターンを変えなければ…の思いが強まるが、約3週間で退院すると再び激務の渦に…医務室で毎日注射 (ツッカーロ) を打ちながら仕事に復帰し、体調を気遣いながらも仕事は相変わらず深夜まで残業する元の生活パターンに直ぐ戻った。

当時、未だピロリ菌の知識は広まっていなかったが、産業医の薦めでピロリ菌退治の治療を受け、以降しばらくは十二指腸潰瘍の違和感は嘘の様に無くなり、深夜帰宅・早朝出勤の日々は続いた。

本店で記憶に残っている業務は、「**尼三発電所AH爆発**…」と「**電源脱落に伴う周波数異常低下**…」の事故対応…何れも真夏の事故で、職場全体が休憩時間も削って技術資料作りに専念して200hrを越す残業で夏のボーナスが2回目?…と勘違いする程の手当が支給された。(不思議と体調不良を唱える者は出ず) ピロリ菌退治のお陰で何とか本店勤務を継続でき、和高専で覚えた「麻雀」・パチンコと和支で鍛えて頂いたカラオケ (桂春団治…) やゴルフ (ハデー30) をストレス解消のツールとして、和高専卒のプライドを貫いて何とか…何とか5年経った頃、やっと次の異動辞令を受けた。

## 大阪（西宮）から福島（いわき市）へ

次の職場は福島県いわき市勿来！…と家族に伝えると「それ何処？」と言いながらも、当然の様に家族帯同での異動（やっとなり）となり、家族4人（幼子2人連れ）で西日本から東日本へ大移動！

職場は研究所のスタッフ業務…9 電力+電発+電中研の 11 事業所から各々数名のメンバーで構成され、「石炭ガス化発電プラントの実証研究」をNEDOから請負う研究組合（電気制御グループ）研究員の一人として東北地方への出向であった。15,000kwのガス化発電プラント建設を終えて試験運転を開始した段階で前任者から引継いだ。

“試験準備 → 試験運転 → 溶融スラッジ詰り試験中断 → 復旧後の原因究明 → 次回試験運転の再開準備”の繰返して、本体設備改修作業中の電気制御グループは待ち時間が多く、試験運転報告書提出後は親元（関電）への報告や見学者対応のみとなり、待ち時間はグループ間の情報交換（飲み会）や家族旅行の計画に没頭できる特異な職場で、常磐火力の古民家風社宅（共同火力の役付き社宅）で優雅に過ごすことができた。

初めての粉体工学（之までは流体工学）の難しさに悩みながらも、試験運転後の報告書を仕上げれば、あとは他電力社員との交流が主要課題…フカールで有名なスパリゾート・ハワイアンも近く、東北のパラダイス！ 鍋を囲んで地酒を嗜む「芋煮会」や全国の地酒・珍味を持ち寄って職場で嗜む「味比べ会」、下手メンバーのゴルフ会、2~3回/月の家族旅行（東北の旅）等、楽しい行事ラッシュで、それまでの不摂生で溜まった垢を洗い流すように、家族全員で健康的な勿来の生活を満喫した。

娘二人は直ぐに東北に馴染んで「…んだ」「…いぐべ〜」…東北弁訛りを連発、蔵王や安比高原、猪苗代周辺のスキー場を巡り、家族4人で雪ん子になって騒いだ光景は今も脳裏に鮮明に残っている。

異動先で初めて十二指腸潰瘍が悪化しなかった名残惜しい職場だったが、4年半で次職場への異動辞令を受け、10年ぶりの和歌山に帰って御坊発電所に着任。

## 和歌山に帰って新居に…

御坊発電所では慣れ親しんだ「計装制御装置の保守業務」に就いたが、最新鋭の自動化プラントで些細な故障でも起動中止等の事故（30分以上の起動遅延は事故扱い）になり、深夜のTEL呼び出しが多発。しかし、優秀な同僚（Nさん）が大半処理してくれたのでストレスは少なく、和歌山での新居探しに時間を割くことができた。御坊での平和な生活はNさん抜きでは成立しなかっただろう。

半年後、三葛に新居を構えた頃には二人の娘もすっかり東北弁（訛り）が抜け、少し下品な和歌山弁…に戻っていた。（子供の適応能力は凄い！）

御坊→紀三井寺の通勤列車は缶ビール片手に通勤仲間との語らいの場として、優しい当直長Aさんを囲んで馬鹿話で騒いでいると、あっという間に和歌山へ着く日々…調子の良い日は紀三井寺を通り過ぎて和歌山迄乗り越し、駅地下で宴会の日も度々あった。そんな楽しい職場も2年半で卒業、少し早めの異動辞令を受けて新居からの自宅通勤は1年足らずで終わってしまった。

## 人間関係の悪さは地獄の如し

次職場は、保修関係者の配属事例が少ない中央給電指令所（以下、中給）で、尼崎寮での単身赴任。中給では、翌日の天気予報から関西圏の需要を想定して落雷による送電線事故のリスク等も考慮した最適な電源構成・ベストミックスを追求して日々経済運用を实践する職場で、火力だけでなく一般水力・揚水発電・他社融通等への稼働調整とそのフォローが担当業務となった。



気象予報士を含めて6名の精鋭メンバー（水系1・火力1・系統2・給電1）が想定需要に応じて原子力と一般水力をベースとして他社融通と火力機出力を積上げ揚水発電で時間単位の発電量を調整し、送電システムの安定性を評価して最終決定する。そろそろ熟年電力マンの域に近づく年代になっていたが、そんな業務が日々行われている事の認識も薄く、保守分野一本で育ってきた私に務まるのか…？と不安を膨らませながら、どきどきハラハラの新入社員に戻った気持ちで着任した。

初日からびっくり…所長と副所長が業務を直接指導して細部まで指示するので、部下は指示通りの業務を時間内で処理する…の繰返しで、之までの職場と違う緊張感漂う職場であった。

当時の中給所長指示は社長指示に匹敵…F副所長が所長代行を務めることが半分、業務上で逆らうことはタブー視される職場であったが、半年経って徐々に慣れきた頃…精鋭メンバーY君（給電系の担当）に対するF副所長の叱責が多くなりY君もノイローゼ気味に…見兼ねてF副所長に改善をお願いするも聞き入れられず、やむを得ず所長に報告・改善要望した処、私への叱責も始まって以降は私とF副所長の戦いに発展して半年経過…当然上司に勝てず…数ヵ月後にY君の異動…私の敗北で終結。その後F副所長との関係は完全に修復することなくF副所長は栄転、その後3年間の任期を終えて私も異動になった。

3年間の任期中に楽しい思い出は少ないが、給電運用業務で得た知見は之までの会社生活では得られない貴重なものだった。社内だけでなく社会の動きに常にアンテナを張る意識が定着し、各水系（黒部・庄川・神通川…）の水力発電所巡りや系統運用関係者との交流で多くの方と知合うことができ、仕事一辺倒に偏った島国根性（火力関係だけの狭い視野）から少し違った角度から見る事が出来る「感性」（広範な視野）を育てて頂いたと感謝している。…F副所長との確執が無ければ…と反省しながら給電運用業務を卒業（中退）した。

## 火力へ戻ると競争社会に

中給卒業後の次職場／火力EC（旧、火力建設）に戻ると「成果主義」で激しい生存競争の世界に変わっており、発電所建設へ一丸となって向かう時代に育った私は少し寂しい思いを抱きながら…壁際へ追い遣られる感じを膨らませつつ、成果評価の採点表づくりに終始…同僚と競争（点稼ぎ）させる仕組みづくりの一員に組み込まれて時間が過ぎていった。

少し前向きな取り組みとして記憶に残っている業務は、右肩上がりの発電所建設時代に獲得した膨大なノウハウの有効活用である。先ず火力発電設備の設計・製作・保守・運用に関するこれ迄の知見をマニュアル化して知見を商品化してお客様に提供する取組みで、海外進出の足掛かりにする為に一部活用しながら約2年間かけて何とか完成の目途がついた頃、LNG基地運用シミュレータのノウハウを手土産に…マレーシアLNGへのプレゼン（初めての海外出張）を終えた後、発電所へ異動の話があり、古巣（海南発電所）への異動が実現…長かった単身赴任生活をやっと解消できた。

20年ぶりの海南では発電所運用部門に着任し、昔なじみの顔ぶれも多く直ぐに溶け込んで自宅通勤を堪能していたが、大所帯の発電メンバーとの運用疲れとピロリ菌退治の効力切れ？…こんな好環境の職場で何故…？ 忘れかけていた**十二指腸潰瘍が再発（6回目）**。自宅近くの和医大に入院して古巣の皆さんに心配をかけた。この頃には潰瘍の治療方法も向上し、約3週間の休暇で復帰した。

以降は、仕事だけでなく年末年始の牡蠣パーティーや日々の昼食会等、大いに地元での熟年生活を謳歌し4年間の自宅通勤も定着した頃、後ろ髪を引かれながら再び大阪へ異動…今度は堺の百舌鳥寮で単身赴任生活へ。

### 諦めかけたが、転籍も何とか…

関電最後の職場はグループ経営推進室で「シャープ堺工場、電源供給設備の仕様書作り」を1年経て、以降はKENNESに出向（堺シャープ液晶工場建設工事に従事）して約2年で竣工後に中之島勤務（エネルギー管理システム等の設計施工）で暫く勤めた頃、KENNESへ転籍の誘いを受けた。

地元和歌山での勤務を希望していたのでKENNES転籍の誘いを断り火力関係の協力会社を切望したところ、転籍話は頓挫…60才で退職も覚悟して酒と煙草の量が増えていった。

（本社ビル32F喫煙コーナーが常勤場所となり、煙草本数60本/日超過の日も増え…）

そんな時に関電プラントK氏から救いの手が差し伸べられ、57才期限ギリギリで何とか転籍も内定？してホッと一息…その安心感で転籍の正式決定を心待ちしながら飲む機会も増えていった。

しばらくして、単身寮で寝汗と肩の痛みが酷くなり、自宅に戻って塩谷医院で受診すると心電図が乱れ、『カテーテル検査が必要』の診断を受け「誠佑記念病院」へ行くと、直ぐに入院となって…急遽カテーテル・ステント治療（緊急手術）となり、転籍の話もボツ！会社生活も終わる…と諦めた。

医術の進歩に感謝…施術後は嘘の様に楽になり、1週間後には体調も元に戻って首の皮一枚で繋がりと、何とか関電プラントへの転籍も実現した。（「体調維持」と「転籍確保」の両立）

### 転籍後は自宅通勤を貫いて

転籍先の関電プラントでは慣れ親しんだ「計装制御装置の保守チーム」に入り、精鋭メンバーを集めてSVチームを結成し、メーカーに代わってボイラ自動制御装置の直営保守を請負う取組みを始めており、その事務局として老体に鞭打つこととなった。10人のスーパーバイザーを養成してメーカー保守から脱却する取組みであり、関電プラントの重職に就いたK氏が考案した「若手活性化方策」の一つとして、特に計装分野の活性化に重点を置く現役時代に描いた夢（計装を主役の座に成長…）実現への取組みである。

先ず関電（本店）担当者の理解を得るのが最大の課題で、之までの異動で構築した人脈をフルに活用して取組んだ結果、6カ月でクリア。次は商売敵となるメーカーに人材育成を承諾（協力）させる課題だが、Win・Winの条件を携えて伊豆や長崎への出張を重ね、メーカー工場への人材派遣（無償派遣から始め、2年でやっと有償派遣）を達成し、人材育成の道も固まった。

ところが肝心のSVメンバーの追従不良（脱落者）が出始め…持続可能な抜本対策？の検討課題を残し役職定年を迎えた。その後のフォローで何とか軌道に乗ったと聞きホッと…。

役職定年後は3年半続けた「片道2時間半の電車通勤」を卒業し、海南事業所へ異動。自宅から「ドア-toドア」マイカー通勤を3年間続け65才で退職し、45年のサラリーマン生活に別れを告げた。

退職後は妻と二人でゆっくり旅行と考えていたが、大阪に嫁いだ娘の里帰りで息継ぐ間もなく…

今は孫4（1姫3太郎）を連れて高頻度に帰省してくれるので、妻は大変ですが宿泊宿の主人の如く大いに楽しんでます。退職直後に開いてくれた「45年間おつかれさん」会で『妻と娘二人の激励』を受け、楽隠居ではなくもう少し自身に鞭打って走ることを決意…。

## 別分野での活躍を求めて

失業保険支給期間中に職業訓練を受け「建築CAD2級」の試験にトライし、高専卒業後初めて公式試験会場で久々の緊張の中…何とか合格（細やかな喜び）したが、目標としていたリフォーム・介護設備関連の仕事はハードルが高く断念。CADの技能は、義父母死去後（実家）の相続登記（自ら法務省に日参して山林の名義変更と家屋の変更登記）でフル活用して、家族に鼻高々！

その後パチンコと野菜作りで半年経った頃、先輩の誘いを受けて工業用水道管理センターの運転監視業務に就く。夜は少し寂しいがトラブル対応等でこれまでの経験を生かせる職場で…居心地良好！しばらく勤めた後は退職して妻との旅行三昧…と考えていたが、体調維持の為に適職かも…と考え直して現在まで、何とか…何とか…やっと70歳までたどり着きました。

## 振り返ると…

幼少時は近所の親戚知人の皆さん（幼子の入魂）、和高専では同級生（麻雀パチンコ、代返、カンニング）、海南計測係では良き先輩（酒と夜の付き合い）、和歌山支店では医務室女医（体調維持とコーラス部）&良き先輩（スナック通いとカラオケ、バックスキー）、本店火力保修課では優秀な同僚（上には上…）、石炭ガス化組合では各電力の仲間（冷酒の嗜み方）、御坊発電所では敏腕同期（迅速的確なトラブル対応）、中給ではF副所長（厳しい人材育成？）、火力ECでは京大卒の優等生（難題の短期処理）、海南発電室では同年代の当直責任者（職場環境重視、親分肌）、グル経の若年上司（我慢とストレス解消法）、KENESでは若年上司（お客様対応のノウハウ）、関電プラントでは優秀な先輩（人間味、優しさ）…皆さんから頂いたご支援と教訓は数えきれず…。

和高専卒業前からの続いた「十二指腸潰瘍」（6回）、単身寮での心筋梗塞手前の「狭心症」の疾病を体験しながら関西～関東を跨ぐ12回の異動を経て関電グループを卒業、沢山の方と出会い多くの事を学んで、よく之まで頑張れた…と自己満足・感謝しています。

仕事上の壁は沢山ありました。挫けそうな場面でいつも私を支えてくれたのは、家族の応援と多くの皆さんの暖かい指導であったことは言うまでもありませんが、その都度その壁を破る原動力となっていたのは「高専卒のプライド」と「一夜漬けで鍛えた粘り腰」だったと思います。何れも和高専の5年間で培われたもので…先生方だけでなく同期の皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、皆さんとのご縁を大切にしながら、もうしばらく頑張ります。

・・・取り止めの無い長文にお付き合い、ありがとうございました・・・

# 私の人生を切り拓いてくれた和高専

69B26 中川 明

私は父の持病と家計の事情から大学は無理だろうと思い、また公立高校入試前の入学テストだった高専を受検しようと思いました。そして、何となく「時代は電気だな」と考えて電気工学科を選びました。(担任が難色を示された理由は後に思い知らされました)

当時、国立高専は学費が月 800 円、寮費が 3 食込みで月 9000 円でした。私は、日本育英会から給付型の奨学金が月 1 万円、貸与型が月 3000 円、また地元出身の方が設立されていた小山奨学会からも月 1 万円を給付され、あまり父母に負担をかけずに高専を卒業できました。(現在は、授業料が月 1-3 年生 1 万円、4-5 年生 2 万円、平日の食費込み寮費 3 万 6 千円程度の方です)

## ・衝撃だった優秀な高専の同窓生

5 クラスあった中学の同窓生は約 200 人、私の成績は最高で 10 番、最低で 50 番くらいでしたが、高専入学時の衝撃は同窓生たちの優秀さでした。入学後、わずか 1 カ月ほどで打ちのめされた記憶があります。そして、あまり勉強に身が入らず、卒業まで成績はクラス 40 人中 30 番台だったと思います。(留年など同級生の入れ替わりを考えると、ほぼビリに近かったでしょう)

当時の高専は、化学工学科のサッカー部の先輩が独学(NHK ラジオ放送)でロシア語を勉強したり、機械工学科のラグビー部の上級生が日本 IBM に就職したり「すごい人がいる」と思った記憶があります。サッカー部で一緒だった同級生も、関西では和歌山高専だけに化学工学科があったので入学し、卒業後は旭化成で研究に従事した優秀な人でした。(今では年賀状の交換程度の付き合いです)

## ・空への憧れ

就職先を考えていた高専 5 年生の春、デスクワークよりも外で仕事したいと思っていたので、日本電気工事という NEC の子会社の内定を 5 月に頂きました。一方で、空への憧れから、航空大学、日航(JAL)パイロット、同時期に全日空(ANA)の航空機関士(Flight Engineer)を受検しました。(フライトエンジニアとは、操縦室で操縦と無線通信以外の、エンジンや各種システムを管理する業務です)

そして、11 月になって ANA 航空機関士奨学訓練生に合格し、東京の日本電気工事本社に内定辞退のお断りをしに一人で伺いました。(推薦して頂いた高専の先生方にはご迷惑をおかけしましたが、日本電気工事の担当者は受け入れてくれました)

航空大学の受験資格は高卒以上、JAL と ANA は 20 才以上かつ大学生または高専生でしたので、私は同期では最年少で ANA の訓練生となりました。

同期は 28 名いましたが、オイルショック後の景気後退もあり、航空機関士になったのは 18 名でした。その後すぐに、パイロットも航空機関士もほぼ採用がストップしたのでギリギリのタイミングでした。

## ・訓練に打ち込んだ 2 年間あまり

同期には文系出身もいましたが、高専では幅広い学習科目があり、私の機械を操作する業務に役だったと思います。

振り返ると人生で最も勉強したのは訓練生時代でしたが、やはり優秀なグループではなく真ん中くらいだったと思います。しかし、学生と違ってライバル関係ではなく、同期が協力して与えられた期間

内に全員が合格を目指すという環境でした。乗務という仕事は成果や優秀さを競うのではなく、必要不可欠の知識や業務遂行能力を求められ、かつ安全運航には正直で安定した仕事ぶりも必須です。(出し抜こうとか、ライバルとして競う気質は、孤立しがちなので乗務には向いていません)そして、約2年間の訓練を経て、ようやく航空機関士の国家ライセンスを取得しました。その後も運航乗務員は半年毎の技能審査や機種移行訓練など、訓練と査定を受け続けます。

### ・航空身体検査

もう一つのライセンスが航空身体検査証明です。詳しい検査を半年毎に受けます。血液検査、尿検査、脳波、聴力、視力・視野・眼圧、通常の内科検査の他に平衡感覚など、また検査医の指示でトレッドミルという心電図の負荷検査やCT スキャン(現在はMRI)などもあります。そして、条件付き合格もあるので、その場合には定期的な検査が義務付けられます。こういう健康管理が乗務を終えるまで、ずっと続くのが運航乗務員です。

### ・全日空乗員組合の一員に

ANA の航空機機関士として発令をうけ、組合にも加入しました。全日空乗員組合はユニオンショップ制度で、運航乗務員になったら全員が組合員になります。その直後、オイルショックで新人パイロットの養成訓練が中断し、100名以上のパイロット訓練生が一時的に航空機関士になると聞きました。私は組合の職場討議で異議を唱え、その経緯から組合に携わる道を歩み始めました。(先輩からの「だったら、お前がやれ」という売り言葉に買い言葉でした)そして、いずれ航空機関士という職務自体が無くなるという予感から、その時に備えてパイロット中心の組合内で航空機関士を応援してくれる世論を維持すべき、そのためにはパイロットのために一生懸命に努力して信頼を得る、そういう自覚が芽生えました。

### ・苦手だったニュースを書く担当に

この様な事情があり、航空機関士として乗務した32年間で組合の中央執行委員として18年間も過ごしました。特にジャンボ機の退役が見えてきた40才から13年間は連続して執行委員となりました。執行委員としての18年間、ほとんどの期間は組合ニュース担当でした。きれいな字が書けない私は、教宣部長だけはイヤでしたが強く勧められ、やむを得ず書いているうちにワープロが普及しはじめ助かりました。

その後、徐々に私はやりがいも感じ、苦手だった書くことを克服する達成感も味わいました。また、組合は情報が多く、普段の乗務だけでは得られない幅広い知識が身につきます。時には乗務に関わる失敗例や教訓に満ちた情報も集まってきます。執行委員は組合員に役立つ情報や、会社側との交渉に備えた準備もするので、自然と情報を集め整理する習慣が身につきます。それらを、乗務を含む日常で伝えていくと、次第に周囲の信頼を得られるようになり、私の能力を認めてくれる組合員が増えていったと思います。

特に大きかったのは私がニュースを書く立場だったことです。情報を得ると伝えるのでは、かなり違いがあると思います。情報を理解するのは個人的ですが、情報を伝えるには多くの人に分かるよう考えることが必要です。人により、その件に関する知識や興味の違いがあるからです。よって、どう伝えるかを考える習慣が身についたと思います。

### ・幅広い組合活動

労働組合の活動は春闘だけではありません。むしろ、要求以外の取り組みが多いです。航空会社ですから事故・インシデントに関わる取り組み(世界的な知見など)は当然のこと、組合員の訓練や審査、そして航空身体検査に不合格といった資格問題など深刻な事態も発生します。また、組合員個人の病気や怪我、金銭問題、時には事件に巻き込まれる等、社会人としての様々な出来事にも、組合員を守るために執行委員の関与が求められる場合も多いのです。(私が現役当時は、約 1500 人の組合員がいました)

こうして執行委員として様々な問題に対処する内に、問題解決能力を鍛えられたと思います。次第に、この問題はどうかやって調べるのか、誰に聞けばいいのか、取り組み方針の組み立てまで考える力が身についてきたと思います。(まだ、インターネットが普及する前の時代です)

### ・組合活動には会計の知識や経営分析も

執行委員は会社側と決算に関する質疑応答や、組合の要求に関わる情勢分析として航空経営の知識も必要となり、徐々に私は自分がデスクワークに向いていると自覚するようになりました。(組合活動を通じて経験してきた会計や経営分析も人生を幅広くしてくれたと思います)

### ・日本貨物航空(NCA)への暦日出向

53 才の時点で ANA のジャンボ機は退役し、その後 2 年間は ANA でのデスクワークと日本貨物航空(NCA)での乗務の二刀流でした。NCA のパイロットは一部の指導層キャプテン(教官、査察、マネージャー)以外は多国籍です。米国人だけでなく、ヨーロッパや南米のパイロットまで在籍していました。外国人はみんなで食事に行く習慣がなく、外国の宿泊先でもほとんど一人で過ごすことになります。治安の関係で怖いと思うこともありましたが、慣れてくると段々と度胸もついてきます。

### ・約 120 名が定年前に航空機関士の業務が終わる

55 才の時に全ての乗務が終わり、航空機関士の仲間 120 名あまりは、それぞれ地上業務に専念、パイロット移行訓練に再挑戦、早期退職の道を選びました。(同期 18 名のうち、5 名がパイロットになりました)

そして、私自身は定年までの残り 5 年間、パイロットの安全教育(ヒューマンファクター)の部署に配属され、ずっと興味があった部門でしたので新たな仕事を苦にすることなく過ごせました。

### ・放送大学で学び直し

定年後、同期が放送大学に入学したと聞き、私も経済学部の 3 年生に編入できました。高専から卒業証明書と成績証明書を取り寄せましたが、卒業後 50 年間も保管して無償で提供と聞いて感激しました。そして、放送大学大学院の修士課程まで終えることになりました。(高専時代の学び直しです)また、組合活動を通じて交通関係の研究者が参加する交通権学会の会員となり、学会誌に論文も掲載されました。テーマは「民間航空とリニアの競争」です。論文は査読を受け、引用や根拠を列挙など、定められた形式があり、新たな世界を経験できました。

### ・趣味はサッカー

少年野球はすぐやめました、小学低学年から道場に通り中学でも剣道部でした。でも、高専時代はサッカー部でした。赤き血のイレブンに触発されたのでしょうか。入学して同級生が20名ほどサッカー部に入りましたが、いきなりの徒競走で遅かった私を含む3人がゴールキーパーに指名されました。すぐに2人は退部し、サッカー経験のなかった私でしたが、幸いにも先輩が引退後はレギュラーになりました。フィールドプレーヤーなら出場は限られていたでしょうから、ある意味ラッキーだったと思います。

卒業後は年末年始の高校サッカーや元日の天皇杯を観戦する程度でしたが、Jリーグができて私も55歳から日勤となったので、サッカー観戦を楽しみました。ピーク時には高校、大学、女子を含め年間70ゲームほど観戦し、日勤時には南アフリカ、定年後はブラジルのワールドカップも観戦に行きました。そして、近所の川崎フロンターレのサポーター会員にもなりましたが、最近では体力的に観戦が厳しくなってきました。

### ・恩返しのつもりで組合活動を続ける

現在も航空機関士をサポートしてくれた労働組合や産別組織への恩返しのつもりで、組合活動を続けています。外航で働く日本人社員や、内外で乗務する日本人パイロットのサポート、組合関係者に民間航空に関わるニュースを配信する作業も続けていますので、結構、多忙な思いをしています。

### ・自動化と環境問題

現在、再び工業系の時代が到来と感じています。温暖化という環境問題、持続可能な成長の解決と実現には画期的な技術が必要です。そして、確かな進歩が見えてきたと思います。

私が「技術革新」によって航空機関士という職務を失ってから15年、いよいよホワイトカラーの仕事まで自動化されようとしています。ITやAIのブレイクスルーです。働く者が否応なく巻き込まれる時代に突入したと思います。

最近の民間航空でも素材(材料)の進化が目立ちます。既に、ボーイング787やエアバスA350の胴体や翼の約半分は丈夫で軽い炭素繊維が使われ、錆びないので整備作業も大幅に軽減されています。また、A350には約2万個のセンサーが装備され、劣化や故障の前に点検や交換をコンピュータが知らせるようになっています。

そして、民間航空でも地球温暖化が焦点となっていて、環境問題では「電気」がキーワードです。航空機は化石燃料である灯油をエンジンで燃焼させ推力としています。その化石以外を燃料とする「持続可能な航空燃料(SAF)」と、電力や水素による推力の代替手段が模索されています。付随して、電気モーター等を出来るだけ金属以外の丈夫で軽い材質に置き換え、燃費も改善するのです。

これら喫緊の課題の理解にも、高専での学習が役立っています。私が苦手だった「化学」が代替燃料の最新技術として注目されています。合成、分解、触媒など、先端技術としての化学が近未来を左右するでしょう。

例えば、藻(ユーグレナ)によって二酸化炭素を原料に、デンブンを回収して燃料にするのです。また、太陽光発電で電気分解して得られた水素をアンモニアにして保存・輸送して、空港で再び水素に戻して水素燃焼エンジンや、燃料電池による電動航空機など、新たな技術が実用化されようとしています。

- ・高専の同級生は兄弟以上の濃厚な関係

高専は1学科40名が入学し、全寮制2年間を含め大人になっていく5年間を過ごすという特別な時期でした。ある意味、兄弟以上の濃厚な人間関係だったと思い、今でも同級生には感謝しています。私は出来るだけ同窓会に参加してきたのは、もし航空機関士とは違う道だったと、同級生を通じて思いをはせる意味からでした。そして、最先端の技術について聞ける楽しみもありました。そういう意味でも同級生は掛け替えのない生涯の友人です。



# 卒業後の 50 年と これから

69B27 中 島 淳

## はじめに

2003年に「宇宙開発に打ち込んだ約30年」という表題で投稿した(注1)。当時49歳で、30年間の会社生活を「第一の波」から「第三の波」まで書き綴っている。さらに、2016年に「会社生活と定年退職後」という表題で投稿した。当時62歳で会社生活が一段落した思いを綴っている。これを書いた時点では、「若いころは、60歳などというのは、自分には未来永劫、来ないものと思っていたが、いつの間にか、超えてしまった。」と書いている。そう思った時点からすでに10年近く経過した。今回は、3回目の投稿となり、70歳の節目を迎えることとなるが、なにやら回数を経るにつけ書くことが少なくなっていると感じる。感動が少ないためか、光陰矢の如しといった毎日である。それでも、残された短い人生を悔いのない形で終えたいと足掻いている状況を綴ってみたい。

1回目、2回目の投稿文章を改めて読み返してみた。1回目の投稿内容のことを、2回目の投稿においては、「何やらギラギラしていて気持ちが悪い」と表現している。現時点では、1回目の内容は、脂がのり切った状態であると肯定的に見ることができる。2回目の投稿は、定年生活新人の不安と期待が伺える。今回の投稿内容が今後10年後にどのように感じられるか楽しみでもある。

(注1) [http://www.wakousen-elf.com/denki\\_jy/katuyaku/NAKAJIMA.HTM](http://www.wakousen-elf.com/denki_jy/katuyaku/NAKAJIMA.HTM)

## 会社生活全般

卒業後、日本電気株式会社(NEC)に入社した。NECでは一貫して宇宙開発業務に携わった。宇宙開発は、一般的には特殊な分野と見られており、私も好きな道であったため、今までその分野に従事できたことは幸いであった。入社後、約7年間は人工衛星の追跡管制を行う地上設備の設計部門に所属した。その後、衛星のシステム設計を行う部門に移り、放送衛星3号(BS-3)の受注活動、設計、インテグレーション、試験、打ち上げ、軌道上の運用と、衛星の開発に関する「揺りかごから墓場まで」の全業務に約10年間従事した。さらに、海外の衛星メーカーに対する受注活動等のマーケティング活動を10年程度実施したのちに、ロシアから受注した、通信衛星搭載用の通信システムのプロジェクトマネージャを務めた。その後、信頼性品質保証部門長、日本の水循環観測衛星(しずく)のプロマネ、防衛省から受注した通信衛星(きらめき)の初期プロマネを経た後、定年退職してその衛星シリーズ(きらめき1号、2号及び、現時点は3号)の技術アドバイザを担当している。3号打ち上げ後の軌道上試験終了をもって、一先ずNEC関連の仕事は完全リタイアしようと思っている。その後は、友人から依頼されている衛星ベンチャー関連作業をボケ防止にお手伝いしようと思っている。

## 思い出深いプロジェクト

50年に及ぶ会社生活の中で、様々なプロジェクトに従事した。また、海外の特別許可が必要な地域にも何度か出張して作業した。その中で、特に思い出深いプロジェクトについて以下に述べたい。

### 放送衛星3号 プロジェクト

放送衛星は、高出力送信機を備えた静止軌道上の人工衛星であり、直接家庭に電波を送信する。今では、BS放送として普及しているが、担当した当時は放送衛星2号(BS-2)による実験放送のみであった。我々

は、米国の衛星メーカーと提携しプログラムに参画した。私は打ち合わせのため何度も米国に出張した。当時は、日本の技術は未熟であり技術習得の時期だった。米国側は情報開示について消極的であり何度も悔しい思いをしたが、自分なりに考え、計算し、また社内の各分野の専門家に聞き、見当をつけていった。当時他社と受注競争を行っていたが、幾つか有利な要因が偶然発生し、いわば棚ぼた式に当社に受注が決定した。受注が決定するまで要した期間は約5年間、じっくり衛星設計に取り組めたことは私自身幸運であった。

受注してからの毎日は、それまでの紙の上での世界と異なり、実際のハードウェアを製造する世界であり、失敗は許されない時期に入った。私は本プロジェクトの中では、システム設計を担当し、その後、インテグレーション及び試験のまとめを行った。衛星は、2機製造し1機目を米国で、2機目を日本で組み立て試験を行った。1機目の組立試験は、米国のニュージャージー州プリンストンにあるメーカーの工場で実施した。このため、私は家族共々米国に移り駐在した。米国での暮らしは、多忙な一面、様々な機会に接することができ貴重な経験を積むことができた。

足かけ10年の歳月を経た衛星プロジェクトで失敗と、それを克服した成功も体験できた。また、駐在中に恩師である宮原先生に、学会の帰りにニュージャージーの我が家に立ち寄っていただき、ニューヨークにご案内した。そのときの楽しかったことは、今でも心の中に大切な思い出として残っている。

## ロシア EXPRESS-AM1 プロジェクト

私のロシアとの付き合いは本プロジェクトから始まった。プロジェクト発足当時は東西冷戦の雪解けでロシアと米国の交流が盛んに行われた時期であった。我々はロシアの閉鎖都市内で衛星インテグレーションを実施した。西側の人間がそこに入れたのは一時的であり、現時点ではウクライナ紛争の影響でとても入ることができなくなった。

私は、プロマネとして、大きな責任を負い、また会社の看板を背負って関係者に対峙したことは、良い経験となったが、高ストレスに悩まされる日々であった。特にロシア人の交渉術には舌を巻いた。西側とは異なる文化、常識が通用しない交渉、寒くて薄暗い気候、更に試験を実施したドイツでの事故等、言葉では言い尽くせない、厳しい試練にさらされ、黒かった髪の毛が白髪頭となってしまった。

ロシア人とはウオッカの味が分かるほど、とことん付き合った。今では、素晴らしいロシアの友人ができたと感じている。その後のロシア関連プロジェクトを含めて、ロシアには40回程度出張した。現時点ではロシア友人との通信も途絶えたが、早く以前と変わらず交流できることを願っている。

## 定年退職後

61歳で41年間務めたNECを定年退職し、別会社に入り協力会社員として、NECの元職場で仕事をしている。現会社では9年目であるが、現在は平均週3日の勤務で支援を行っている。仕事をやり繰りして、夏にキャンピングカーで1か月以上北海道旅行を楽しんでいる。私生活では、子供3人（女、女、男）に恵まれた。長女、次女は、すでに結婚している。末っ子は、未婚だが自立している。自宅では、妻と2人で静かな生活を送っている。

高専時代から、色んなものに興味を持つ性格で、今でも趣味が多い。定年前から、陶芸を始め、かなりのめり込んでいる。自宅に工房（物置小屋）を作り、ロクロや電気窯も備え付けた。現在、陶芸教室に通っており、その付き合いも深い。公募展にも何回か入選しているが、3年前にペアカップ展で大賞を頂いた。

アウトドアも好きで、学生のころワンゲル部員ではなかったが山に登っており、NECでは山岳部に入り、四季の山を楽しんだ。現在では、妻と低い山に登り、温泉に入る軟弱路線に移行した。

中学校当時に駅伝を走ったことから、その後も走るのが好きで、70歳になるが、マラソンのロードレースや駅伝に出ている。タイムはかなり遅くなったが、走った後のビールのうまさ忘れられず、ビールを飲むために走るという、本末転倒のきらいがある。

旅に出て、城や史跡を巡り、焼き物の窯元を巡り、山に登り、パークゴルフを楽しみ、温泉に入るといふ、訳の分からない趣味の脈絡を実現するために、中古の安いキャンピングカーを買い、道の駅やキャンプ場で車中泊をしつつ、各地を巡っている。

今年、父親が96歳で旅立った。認知症が進み晩年は老人ホームでの生活であった。母親は、現在98歳であるが、80歳からアルツハイマーを患い老人ホームに入っている。両親が認知症なので、明日は我が身と覚悟している。残された短い時間を使って、旅、陶芸、登山等々、色んなことをやってみたいと思っている。

以上

## 『和歌山高専の学びから始まった私のキャリア形成』

69B30 西 口 幸 弘

就職して配属された部署は、電卓用 LSI の設計開発部門であった。高専では、電子回路、論理回路の授業を受け、卒業研究でサイリスタの特性評価（データ採取が主体）を行っただけのため、半導体及び設計の経験が乏しかった。そのため、半導体、特に MOS トランジスタで構成されている電卓用 LSI のことは全く分からず、不安を抱いてのスタートであった。

電卓用 LSI の発展形が現在のマイコンである。電卓用 LSI は、メモリ、CPU、周辺機能を 1 チップに集積した製品でソフトウェアにより制御していた。最初は、先輩に教えられるままに、既に試作品が出来上がっていた製品の評価の一部を担当していたが、何をしているの理解できないままであった。その業務が終わり次の業務の間の空き時間に、ソフトウェアを見る機会を得た。命令表を片手にフローチャートを見ると、高専の経験が蘇った。授業ではなかったが、瀬戸先生の指導を受けていた大型コンピュータ上で動作するフォートランのプログラミングと同じことに気が付いた。一端が理解できると後は連鎖的に進み、命令コード及びフローチャートに対する論理回路図上で動作を追うと、基本のレジスタ間のデータ転送命令ができる仕組みを理解できた。LSI 全体の動作も理解できて、とても感動したことを記憶している。不安が希望に変わった瞬間であった。授業では得られない経験をさせてもらっていたことをありがたく思った。同時に、何にでも興味を持って経験する重要性を認識した。

幸いなことに当時の LSI は、システム設計、回路設計、ソフトウェア設計、回路パターン設計、試作、評価、まで一人で完結できる規模であった。製造プロセス、量産製造は、部門が分かっていたが協働することができ、一定の知識を得られた。技術的には、現在とは比べものにならないほど低レベルだが、結果的に LSI に関わる多くの技術を得ることができた。また、LSI の黎明期であったため、先輩たちは皆若く和気あいあいの雰囲気の中で議論が活発で、半導体の設計開発に関するいろいろな知識を習得できた。私にとって、この部署の経験が今に続くキャリア形成の礎になったことは間違いない。この部署の方々との交流は、同窓会の形で現在も続いている。

その後、本格的にマイコンの設計開発を担当した。この頃は、分業が進み、チームで製品開発を行う体制へと移行していった。そのため、設計に専念した業務に携わった。

しばらくすると自動車の電子化が始まり、自動車用マイコンに携わる機会を得た。自動車は、車種やオプション毎に制御方法が異なるため、各種制御パラメータを製造ラインで設定する必要があり、記憶用に不揮発性メモリを内蔵する必要がある。不揮発性メモリの記憶品質向上に対し、苦労を重ねながらプロセス開発部門と協力してプロセス改善を行った。この場面でも電卓用 LSI に経験した製造プロセスの知識が役立ち、加えて最新の製造プロセスの知識を習得できた。また、自動車は人の命を載せているため、他の市場分野より格段に信頼性と品質が厳しい。自動車品質の保証だけでなく、不具合への対処も大変で、徹底的に原因解析し再発を防止する。ここで品質管理部門と協働したことにより、半導体の信頼性と品質保証に関する技術と知識を習得できた。

この時点で、LSI の全分野を経験したことになり、一貫した LSI 関係知識を習得できた。また、日本のみならず欧米の自動車メーカー及び自動車電装メーカーに密着した経験により、国際標準規格、顧客の考え方、臨機応変な対処方法を知ることができた。

その後、管理、監督する立場になり、第一線を退いていた定年間際に、過去の経験と知識が生かせるチャンスが巡ってきた。入社当時の寮の先輩から、自動車関係の半導体の開発設計を新たに始める会社を紹介された。何かの縁と考え、定年 1 年半前に早期退職し転職を決意した。業務はアナログ半導体関係であったが、LSI を通じて得た半導体の知識と技術が役立った。さすがに実務は無理であるが、過去の経験、技術、知識、顧客との付き合い方を含め、若い技術者

にコンサルティングする仕事に就いて、現在に至っている。特に、半導体プロセス、量産製造、品質保証に関する技術や知識は、座学では難しく実体験が重要なため、貴重なようである。

高専時代から現在までを振り返ってみると、高専時代の経験が基礎となり、黎明期であった LSI の仕事に恵まれたことも運が良かったと思える。また、幅広い業務を経験する中で得た技術や知識が、自分で気付かないうちに強みになっていたのであった。ただし、半導体技術は日進月歩であり、長く現役を続けていくために、日々知識をアップデートする努力を怠らないことが肝要である。基礎知識があると比較的容易に最新の半導体技術を理解できるものである。

日本の半導体は、かつてシェア世界一を誇ったが、ビジネスモデルの失敗から新興勢力の後塵を拝し徐々に撤退していった。しかし、コロナ禍で半導体不足が勃発して、安全保障の観点からも半導体の重要性が再認識されており、国内製造のため政府も本格的に動き出している。5G スマホはもとより、話題になっている電気自動車（EV）や、AI の発展のためにも半導体の重要性がますます高まっている。今後、健康でやる気が続く間は、微力であるが、私が得た半導体全般に関する技術や知識を後輩たちの成長に役立てていきたいと思っている。

以上。

## 『卒業後 50 年の航跡』

69B32 野田 昭一

・古希を過ぎ健康寿命の期限も遠くなく、仕事で得られた経験を中心に残せる記憶を整理してみます。これまでの生活は人並みで暮らし向きに差はあれど、今は平均的な落着と考えています。

就職の目標は官費で海外に行ける仕事でした。

観光旅行では見る事の出来ない地域への訪問や仕事を通して外国との人的交流に魅力を感じました。

日本電気工事株（現在の NEC ネットアイ）に就職し、2019 年末 66 歳まで 45 年 8 カ月お世話になりました。

当初 5 年間は NEC 横浜工場で通信機器の検査業務に従事し、なかなか海外出張に出る機会はありませんでした。

最初の海外出張は 1979 年マレーシアのマラッカ衛星地上局の現地調整でした。

衛星アンテナは三菱でしたが制御系の地上装置は NEC でした。

初めての海外単独渡航であり、香港での飛行機乗り換えなど慣れない英語で緊張の連続でした。

現地には施工部門の当社社員もいてお世話になりましたが NEC 現調員の身分で別稼働となりました。

怖いもの知らずで三菱に準備頂いたホテルを出て現地で知り合った友人宅に転がり込んでの生活でした。

正月休みには会社には断りもせず友人と首都クアラルンプールに出かけご迷惑をお掛けしました。

帰国後も三菱と NEC の打合せで小生の言動が物議を醸したと聞きました。

オーストラリアへの出張は 1980 年サウスオーストラリアのアデレード西にあるセデュナ衛星地球局でした。

帰国前にシドニーの友人を訪ね、後に家族と一緒に観光旅行で再訪するきっかけとなりました。

1981 年にはマダガスカルの無線通信回線の最終試験と保守業務で出張しました。

フランス語圏であり、引継ぎして下さる先輩はいましたが単独行動時は片言で必要最低限の会話のみでした。

自然豊かで首都アンタナナリボの宿舎からはフランス、中華料理店も近く不自由はありませんでした。市場では肉の塊や野菜も豊富でしたが鶏は生きたまま買って調理、現地の友人にお願いして料理を手伝いましたが手の中で命を頂く経験でした。

風呂は無くてもビデはあるフランス様式で臍から下は人格が無いと言われるオープンな文化でした。

人種的にはマレー系ですがフランス混血の美人もかなりいました。

ホテルにはカジノもあり、ルーレットなどで勝てたときはディスコでバカ騒ぎもしていました。

首都から陸路数日掛けてマダガスカル南西部、モザンビーク海峡に面した町テュレアルまで行ったときは久々の海を見て感動に涙しました。

真っ暗な夜道に見える南十字星や点在する素朴な町、変化にとんだ景色、日本では見られない夕焼けの色。

シーラカンスやワオキツネザルなど豊かな自然が溢れていました。

政治は不安定でクーデター時は軍隊に守られながらの無線通信局舎での仕事でした。

現地の日本人会や大使館にも招かれて、日本食にも恵まれました。

帰国時には象牙、アンモナイト、石のボードゲームなど文化財持出し証明を得て土産を持ち帰る事が出来ました。

中東は 1983 年イラクや 1986 年クエートに行きました。

イランとの戦争で街中に積み上げられた戦闘機の残骸やフセイン大統領の侵攻で破壊されたクエートタワーなどが記憶に残ります。

アフリカのナイジェリアは1984年から越年での長期出張となりました。  
全土を NEC、英 C&W、米 GTE、仏 トムソンで4分割し、首都ラゴス地区無線回線構築の仕事でした。  
現地人は顔の傷で部族が判るハウサ、イボ、ヨルバ等の多数の民族が存在します。  
子供のころから顔に傷をつけて部族を表すのですが戦闘部族など顔のほとんどが1~2cmの傷で覆われています。  
ナイフや槍を携えている人も多く、慣れないとかなり怖い状況です。  
アルマジロやハリネズミも食料として生きたまま売られています。  
食事は山羊の頭を煮た物やトウガラシや香辛料にまぶした串焼きなどが有ります。  
ゆでたピーナッツやオレンジは安価で美味しく食べられます。  
オレンジは子供が頭にのせて売りに来て、買うとその場でリンゴのように皮をむいてくれ、絞って飲みます。  
仲良くなった子供が私のサングラスを掛けて一緒に撮った写真が社内報で紹介された事も有りました。

メキシコも思い出深い出張でした。  
マラドーナの活躍した1986年ワールドカップの衛星アプローチ回線建設に携わりました。  
前年の大地震の影響もあり時々余震もみられホテルの壁には亀裂も有りました。  
アステカの競技場の屋上で雷の光る中でも時間に追われ作業をしていました。  
メキシコシティの地下鉄は政策で低料金で乗れます。  
市内に遺跡も多く、闘牛も見てきました。  
夕食時のマリアッチも楽しめますが現地の友人と同行するのが無難です。  
メキシコシティは標高が2000mを超えるため酸素濃度が低く、階段の上り下りで酸欠状態になります。

1987年に中国南部で香港に近い広州方面へ通信機器の不具合調査に訪れて、ホテル建設の進む海南島も見てきました。

北米は尤も多く出張で訪れました。  
海外出張全体の半分以上で回数では12回、通算1,000日近くになります。  
ロスアンゼルスからサンフランシスコのマイクロ回線構築時には1989年サンノゼで地震に会いました。  
ベイブリッジも一部崩落した大きな地震でした。

テキサス州から北上し、セントルイス、インディアナポリス、シカゴの都市部、  
オレゴン州ポートランドからコロンビア川沿いにマウントフッド、冬のロッキーとコロラド山岳地帯、  
東海岸のマサチューセッツ州ボストン、メイン州のポートランド、  
ユタ州のソルトレークシティ上空からの景観も記憶に残りました。  
ロスアンゼルスから車でグランドキャニオンを経てラスベガスへ向かう道ではカジノがだんだん増えて行きます。  
ラスベガスではカジノを楽しむ客にホテル宿泊料金は非常に安く、カジノ内での飲み物も無料でした。

ウエストバージニア州のクールスプリングで「日本のどこかに私を待ってる人がいる」と1981年に結婚を決めました。  
それまでは外国人の奥さんでも良いかと考えていましたが。

1990年から子供が小学校に入学するタイミングで海外の仕事から足を洗い和歌山に自宅を新築しました。  
勤務地は大阪となり和歌山から通勤していましたが1995年阪神淡路大震災を経験しました。  
震災で破壊された神戸ハーバーランドや市役所庁舎が悲惨でした。

1996年に転勤で北陸支店金沢市に異動となり第4子の次男を授かりました。  
仕事では2002年に社内の権力闘争に巻き込まれ九州への異動となりました。

高校生と大学生の娘達を金沢の家に残し、小中学生の息子たちは帯同しての転勤でした。

九州支店勤務の福岡で2005年に玄界灘地震に遭いました。

子供の競技会に同行し、テニスコートの照明柱が弓なりに揺れ、玄界灘に山肌の岩が崩れ落ちるのを目撃しました。

2006年に家内の実家が在る宮城県に転勤し、東北支店の仙台に住居を移しました。

2011年には東日本大震災にも遭遇し、その直後に和歌山の母が亡くなり混乱の中で途方にくれました。仙台から陸路バスで新潟まで出て飛行機で伊丹まで飛び、何とか無事に葬儀を終えました。

考えてみればかなり大きな地震を高い確率で経験しているようです。

2020年1月から現在2022年末ではNEC系中小企業の仙台営業所で専任技術者としてフルタイム勤務しています。

来年からは週3日程度に勤務を減らし、可能ならば70歳までは働いても良いかと考えています。

これまでの経験を基に安全品質と電源教育等のノウハウを後進に伝える事が出来れば完了です。

2023年には会社勤めを終える予定ですが、卒業後50年間何とか健康で働けた事は感謝すべきと思っています。

これからの数年間は蔵王の自然に包まれて気ままに、のんびり暮らすつもりです。

体が弱り杖が必要になれば仙台のマンションに戻り、楽しみは図書館通い程度になりますね。

お互いに健康で体が動く期間が限られていますので悔いなく過ごせますように。

以上

## 海外出張—map (1979~1989)



マレーシア、オーストラリア、マダガスカル、ナイジェリア、イラク、メキシコ、クエート、中国(広州)、USA×11、計19回



# 半導体と共に生きて

69B34 船木哲司

スマホやパソコンが当たり前となり、インターネットで瞬時に情報が得られる便利な時代になったが、我々が生まれた1953年前後に、これらの電子部品の種であるトランジスタも誕生し、急激に電子化が進み、成長してきた。

- 1948年 半導体を使った接合型トランジスタが発明された
- 1955年 東京通信工業（現ソニー）がトランジスタラジオを発売
- 1957年 トランジスタ式電子計算機の開発（電気試験所）
- 1958年 集積回路（IC）が発明された。
- 1960年 トランジスタ式白黒テレビの発売（ソニー）
- 1963年 集積回路の製品出荷開始
- 1964年 IBMや日本メーカー（富士通、NEC、日立、東芝など）が大型計算機を次々と発表
- 1964年 半導体産業が10億ドルを超過
- 1968年 CMOS-ICの発表（RCA）
- 1970年 1Kbit DRAMの開発（インテル）
- 1974年 8bit マイクロプロセッサの開発 8080（インテル）、Z-80（Zilog）、68000（モトローラ）
- 1974年 卒業そして就職

## 卒論はタイトル

高専4年の時、夏休み企業実習でコンピュータのプログラミングを学んだのがきっかけで、就職はコンピュータメーカーに行きたいと考えた。

その頃、日本に大型コンピュータメーカーが6社あったが、単純にコンピュータフロントパネルの斬新なデザインに惹かれて富士通を選んだ。

入社面接では、宮原先生のところでの卒論”沸騰冷却”（沸騰しているのに、なぜ冷却が出来るか？）に興味を持って貰ったのか？... 合格した。卒論はタイトルが重要。

ただし仕事内容はプログラミング希望だったが、卒論の影響なのか半導体部門配属となった。

## 刀鍛冶気分

最初に配属されたのは、神戸市に有った半導体工場の製造技術部門だった。

集積回路製造の各工程は、暗室でのフォト焼付け作業、ウェハーを並べた拡散炉工程、アルミ蒸着、顕微鏡を覗きながらのボンディング、ペレットを溶着しパッケージ封止組立て、製品の良否判定をする試験作業等の全ての工程が目新しく、興味深かった。

担当だった拡散工程では、工程毎に850℃、1000℃、1100℃等と拡散炉温度が異なりやがて炉心の色で温度が予想出来るようになり、刀鍛冶の火起こし目線になっていた。

しかし技術進歩が早く、神戸工場はウェハーサイズが小さい為、世代遅れで閉鎖となった。

## 毎日が新鮮

2年間の工場勤務から、次は集積回路の設計部門に異動となった。

その頃は大型計算機(メインフレーム)全盛期で、ほとんどが大型計算機用のデジタル IC やメモリーIC の設計が主流だったが、移動になった部署は別用途の IC を開発する新設部隊だった。

デジタル・アナログに拘わらず色々と開発した。

ゲートアレイー論理ゲートを敷き詰めて置き、最終 AL 配線でデジタル設計し短期間製造が可能  
高耐圧素子――電話交換機の入口に使用される為、電話線への雷サージに耐える 400V 高耐圧 IC  
超高速素子――携帯電話や無線 LAN に使われる数 GHz の高周波用 IC

長寿命素子――取り換えることが出来ない海底ケーブル用の 20~30 年動作する長寿命増幅 IC

それぞれが独特な素子構造を取らなければならないので、設計だけではとても無理と思えた事も、製造プロセス開発部門や品質信頼性部門とも協力しながら新規開発するのが新鮮だった。

## 20 世紀の前衛画家

設計手法は、初期は実験ボードにトランジスタや抵抗を組み上げて動作確認していたが、やがて計算機による回路シミュレーターを使った設計へと進歩していった。

回路レイアウト手法も、A0 番の大きな方眼紙を複数枚使用した製図を層別分コピーしてから層別フォトマスク図面に分解してデータを読み取る方法から、CAD 使用へと進化していった。その都度、新しい装置やツールを使うので飽きる事が無かった。

製造には”ばらつき”が有るので、”ばらつき”に強い素子パターン設計や回路シミュレーションで”ばらつき”を検証して置かないと、量産に入った時に低良品率でコスト上昇してしまう。

このような事を考慮して数か月掛かって書き上げたレイアウトパターンは、配置に気を付けたペア素子や流れる電流に合わせ工夫した配線パターンなど、一種の絵画作品のようで量産になると数百万から数千万個も製造するので、自分の描いたパターンが大量に複製されパッケージされた IC は何十年も残るので、これはもう前衛画家だと思った。

## 探偵は忙しい

集積回路は設計・レイアウトが完了しても、試作製造に最短でも 2~3 ヶ月掛かる。

設計ミスがあれば直ぐに修正しても、また 2~3 ヶ月掛かるので開発が大幅に遅れてしまう。

つまり 99 点での出来上がりでも、やり直しには 2~3 ヶ月掛かる上に追加費用も発生してしまう為、常に満点を目指す必要があり、色々な方法で何度も確認して試作品が出来るのを待つことになる。

それでも試作品が正常に動作しない場合は、原因を見つける為に設計やレイアウトを調べるが不具合の推定・再確認や不具合箇所の絞り込み等、回路とレイアウトを睨みながら原因を推測してわずかなミスを探す、まるで時間に追われた探偵のような作業だった。

## 作り込み時代

入社から 20 年くらいは半導体工業の黎明期だった為か、設計部門の業務範囲は設計だけでは無く、顧客へ営業部員と同行して商談したり、クレーム対応で品質管理部員に同行して説明したりと、顧客要求や工場での精度・品質を考慮して、如何に上手く作り込むかが求められた。

これは色々と考慮して設計すれば、後々のトラブル回避になる事を学んだが家内工業的だった。それ故に若い頃は忙しかったが、一から十まで全てに関われた事は非常に面白かった。

半導体産業で飛び抜けて費用の掛かるのが工場を建てることだが、最新工場を建設しても技術競争が激しくて建設費用を回収する前に、次の先端工場を建てないとビジネスが成立しなくなり費用が嵩んでしまい、やがて業績面では悪循環に陥っていった。

## 組み合わせ時代

黎明期には家内工業的で良かったが、成熟期には効率やコストを追求すると分業制が良くこの費用をかけた工場の稼働率を上げるには 1 社程度の製品量では賄いきれない為、工場だけのファウンドリ企業 (TSMC 等) が出来て来て、設計や製造の専門会社が生まれてきた。

このとき世界的なトップメーカーとなっていた日本の半導体企業は、設計から製造までの一貫生産から直ぐに変わることができず、世界から取り残されていくことになった。

ただしファウンドリ企業も、半導体製造装置や素材を組み合わせる工場運営するため競争力のあった日本メーカー品を必要とし、日本の装置や素材メーカーは、今日でも世界の第一線で活躍・貢献している。

## 終わりに

今はソフトウェア主流の時代になったが、それらの動作に必要な最先端の集積回路の基礎を支える製造業の時代に生きてきた我々も、社会に貢献してきたと思っている。振り返ると、半導体が生まれた頃に我々も生まれ共に成長してきた事に運命を感じている。

ちなみに就職時のプログラミング希望の顛末は、テープドライブのパソコンが出始めた頃から趣味として楽しんでおり、win3.1 (win95 の前身) の Excel シートを初めて使った時などは自分でプログラミングしなくても簡単に計算表が出来る事に感動した。退職してからは、ソフトウェアは半導体と違って一人でも作れて間違いも直ぐに修正出来るので恰好の暇つぶしになっている。

# 『高専時代と社会人で学んだことの思い』

69B35 蒔田幸靖

## I部（卒業～退職）社会人時代を振り返って

1975年（昭和50年）卒業して、社会人となって、49年間栗原工業(株)で勤めておりました。

会社の事業内容は、総合設備工事業です。主には建築設備の電気工事をしていました。私が入社したきっかけは、岸本君が卒業時に書き残した企業紹介に栗原工業があつて、非常に若い(平均年齢27歳)会社であると同時に成長が見込まれると、就職案内が学校に張り出されていた(ボーナス10カ月)とおもいます。

担当の先生に栗原工業を受けたいと希望して5月に面接の為、大阪梅田の本社に行きました。今年、2024年7月1日に創業105周年を迎え、業界でもトップクラスの歴史ある会社で約半世紀勤めました。

現在は、南森町に本社自社ビルに移転しておりますが、梅田東阪急ビル7Fで面接を受けて、交通費（電車代）を精算してもらって、帰ってきました。試験は有りませんでした。

後にレポートの提出がありました。学校に戻って、しばらくして先生（誰だったか）から内定したと聞かされて、はいと二つ返事で就職が内定しました。あとは、卒業研究のまとめを、高垣君と何をテーマにやったのか今となっては忘れてしまいましたが、それにラグビーをやっていたので、暫く高専大会（例年11月だったかと）に向けて練習していました。

栗原工業（株）に入社して、本社での2週間の研修（現在は8カ月となっております）を経て、大阪南支店（堺市→現在は泉大津市）に配属となりました。入社希望は大阪としていたので……。

（49年間勤められたのは、大阪南支店に配属されたことが大きかったように思っています。）

在学中の4年生実習で、東京の日本電気工事(株)(現 NEC ネットウェア(株))に3週間行きましたが、横浜から田町までの通勤電車の人の多さに私は、無理だと感じて帰ってきました。だから、大阪を希望していました。大阪南支店、和歌山営業所、そして東亜燃料工業作業所でした。

有田市の現エネオスと和歌山製油所で石油製造会社（2023年10月閉鎖）でした。結局、学生時代を御坊で6年間過ごして、大阪～和歌山～有田市に戻ってきました。そこで7年間石油製造プラントのメンテナンス工事を担当しました。昭和57年10月に和歌山営業所に戻り、市立郷土資料館建設工事（現在の和歌山市立博物館）を係員として担当しました。もちろん、住まいも和歌山市に移しました。

そこでは、初めての建物工事でした。皆さんが知っているところでは、オフィスビル、マンション等、鉄筋コンクリート（RC造り）の建物です。（現在は、SRC造が主流かも）

電気情報科の岡本先生が、和高専ホームページで紹介されていたと思いますが、まさしく建物のコンクリートに血（電気）を流し、水（給排水衛生）を与え、空気（給排気）で包まれてこそ、人間が生きていける空間が出来上がるのです。それに、現在は神経（情報通信）が最大のテーマになっております。情報社会に馴染んでいくためのノウハウが武器となる社会になっているように思います。

こんなふうに思えるようになったのは、入社して40年携わってきてやっとたどり着いた感が有ります。会社員スタートとなった東燃では、プラント電気工事で見えていましたので、しかし、RC造の建物は、コンクリートの中及び天井内に先ほどありました血を流す（電気の流れ）ことになりまますので、当然技術も必要ですが見えない部分の想像力が必要でした。コンクリートの中や、天井内で裏側に隠れてしまうので間違ってしまうと表面に仕上がる電気設備が取り返すつかなくなることを、沢山勉強しました。

もちろん電気工事を施工してもらう電気さんや、他職種の人々と話をしなければ、仕事が進まないことを東燃時代よりも十二分に思い知らされました。その後は、和歌山営業所勤務で、花王石鹼（現花王株）和歌山工場で、プラント建設、メンテナンス工事で電気・計装工事を、約7.8年工事主任として行っていました。

1991年和歌山県工業技術センター研究交流棟電気設備工事を現場代理人として初めて公共工事を担当しました。元請として和歌山市立博物館以来の仕事でした。

1993年には、和歌川終末処理場水質改善電気工事（和歌山市公共工事）を担当し、和歌山市内の和歌川の色抜き工事として行われ、ぶらくり丁の川の水も以前に比べて随分美しくなりました。環境が叫ばれている現在、まだまだ浄化しなくてはならないように思います。建物と浄化するプラント工事の両方を経験することになりました。

1994年には、四季の郷公園（緑化果樹園）整備工事（和歌山市公共工事）を担当し今回は、公園を造るので大きな土木工事の中に電気工事及び給水工事をはめ込んでいき、和歌山市民の憩いの場所公園が出来上がりました。現在は、関西トップクラスの広さを誇る「食×農×体験」の道の駅四季の郷公園として2022年にグランドリニューアルしており、和歌山市民にとどまらずたくさんの人々が訪れているようです。

1996年には、再び和歌山県公共工事と和歌山県多目的ホール舞台照明設備工事を担当し、現在はビッグホエールと呼ばれています。8500人収容可能なホールで、オープン記念イベントでは、その時代の人気グループの一人が行ったように思います。

1998年には、工事部工事課長になり、現場代理人ではなく管理者として工事課員の現場調整、パトロール、現場検査を主に行っていました。

1999年には、再度京都市西京極総合運動公園プール棟新築工事（京都市公共工事）をジョイントベンチャー（JV）の所長として、約3年間京都に初めての単身赴任でした。栗原工業株と地元京都の企業2社で共同企業体を組織して、施工を進めました。国際大会が開催可能な、世界基準の屋内メインプールで、冬期にはスケートリンクに変わります。一年を通して市民の方の健康促進の場として、温水プールも併設された競泳場です。完成後は、京都アクアリーナ（アクアとはイタリア語で水）と命名されています。西京極運動公園の一部となっております。高校駅伝（都大路）のスタート・ゴールである「たけびしスタジアム京都」及び野球場である「わかさスタジアム京都」があります。この京都アクアリーナが、私の最後の現場代理人（監理技術者兼任）としての現場でした。

2005年には、工事部次長から営業部次長（51歳）となりその後も現場にかかわりましたが監理技術者として携わり、現場代理人は若い社員が担当しておりました。

その後、営業部長（55歳）、大阪南支店長（58歳）を経て、60歳で定年退職となりました。大阪南支店長を60歳の12月まで勤めて、支店付営業担当部長としてシニア社員で、71歳まで栗原工業（株）にお世話になります。私の定年後の10年は、社会が変化していったことで現在は、定年退職が65歳、シニア社員で規定は67歳までその後は本人希望と会社の判断になります。その中で、私は70歳で区切りをつけようと思っておりましたが、ありがたいことに会社の都合で、1年延長になり今年（2024年）完全退職します。

4年ほど前から、家庭菜園（貸農園12坪）で農業に励んでいます。波止場（青岸）の魚釣りもゆっくりと平日の朝から行けるようになってと思います。（主に、アジ・チヌ）今後は、地域の自治会活動にも積極的に参加していきたいと思っています。

## Ⅱ部 高専時代を顧みて

昭和44年 九度山中学校から和高専に海堀君と共に入学しました。2学年までは全寮制の為2号館 1階の104号室だったか4人部屋に入りました。1年生3人と室長として2年生が1人おりました。今思えばベッドと机が4つで、他には何もなかったようでした。土日は高野山の実

家に月1回程度帰っていたように。クラブ活動は、僕自身としては特に運動ができることはなかったのので、団体競技がいいかなと思って、ラグビー部に（現在は休部→廃部）入部しました。

今となっては、高専でのラグビー部で、色んなことを学んだように思います。それが何なのか。コミュニケーション、先輩・後輩の絆、仲間と共に何かを作り上げること等、無意識のうちに経験して社会に出たように思います。このことが後の社会人人生に大いに役立ったと思っています。現役時代のラグビー部の思い出は、1年生の初めての夏合宿で武道館においての寝泊りでした。朝から晩まで練習に明け暮れていたかも。

あの時代、練習中に水を飲むことは禁じられていたのです。今では考えられないことですが、あまり抵抗は感じられず、先輩の目を盗んでプール横の体育館側で水を含んでいたようにも思います。

大会の結果は別として、県国体予選や、近畿高専大会、和歌山県社会人選手権など、1年間に試合がいくつかありました。只6年間ラグビーを続けられたことは私の自慢です。私が卒業した年は、近畿大会を勝ち上がって全国大会に出場したことがありました。

次に寮生活ですが、2年間だったと思う。寮食堂の思い出は、昼食か夕食で太刀魚の焼き物が山のようにあったので、食べ過ぎてしまって、社会人になってからは、はしが止まっていた。指導寮生として各フロアーに3年生が、2人部屋で1号室にいました。僕が1年生の時は、機械科3年生の大東さんと日裏さんでした。その大東さんとは、卒業30数年後に花王（株）和歌山工場で再会しました。大東さんも私を覚えてくれていて、和高専を改めて思い出し、懐かしく嬉しく感じました。

3年生になってからだと思うのですが、田本荘で下宿生活を行いました。先輩からの紹介で入りました。下宿代として食事はもちろんありませんが、4500円/月だったかな？

ここで、卒業までを過ごしました。周りは農家なので、あの頃はスイカ、キャベツ等が1年中、畑に出来ていました。先輩の下宿に行くこともいつの間にか始まり、いつの間にかお酒を飲むことも覚えてのでしょう。そんな記憶がよみがえってきます。

従って僕の下宿にも、後輩が遊びに来て僕の誕生日にとウイスキーの角瓶を持ってきてくれたのを思い出します。そんなに飲めるわけでもなかったようですが。その後は、麻雀をいつのころからか覚えて明け暮れていたと思います。

しかしながらそのおかげか、社会人最初の頃は仕事上の営業に役に立ったように思います。夏休みにはアルバイトをしていたのですが、白浜のホテルで午前中のベトリメイク（と言ってもシーツ等をリネン室に大量に運ぶ）と、夕方からのレストランのボーイをするなど、3週間程度しました。そのアルバイト資金で、東北一周の旅に出かけました。周遊券が6500円（区間内急行乗り放題）で、行きは大阪駅からの夜行で、急行「きたぐに」午後10時出発である日の夕方6時に青森に到着しました。青函連絡船の待合室で北海道組の先輩と会いました。その日だけユースホステル（生涯1度切り）に泊り、あとはバス停等寝袋で野宿しながら、下北半島の本州最北端から東北を下って仙台、七夕を見学して東京に下りてきました。周遊券は多分これで終わりなので、新幹線で大阪に戻ってきました。この旅は一人旅として、人生で最初の最後でした。大阪駅で購入した一箱（20本入り）のセブンスターは、大阪駅に戻ってきたら数本残っていました。

高専時代の思い出は、たくさんあるのですが、さすがに年代ごとに覚えてないですね。思い出すこともできません。ただ、御坊市名田町での生活は、今から考えるとなぜか時間がゆっくりと進んでいたように思います。次にあの頃の生活感を思い出します。

自動二輪の運転免許を取得し（誰かと一緒だったか）、親にねだって（今思えば親父には、大変なお金だったと思うけど。）単車（ヤマハ125CC）を買ってもらいました。それに乗って家に帰ったり、御坊や田辺にパチンコに行ったり走りました。

その前は、バスに乗って御坊の“松原”と言うパチンコへ行き、バス代と100円残して西御坊の駅のところで、コロケを100円でいくつあったのか覚えてないけど、夕食替わりだったような、バス代がなくなったら歩いて学校まで戻っていました。和歌山迄は、時々ヒッチハイクもしました。野島から印南の方向に歩きながらトラックに乗せてもらったように思います。

そして、会社員を終えようとして思うことは、学校では決して勉学に励んだとは言えないけれど、人生は山あり、谷ありで過ぎていくものだと思うこと。そんな中大きな病気にもならず、健康で過ごせたことが良かったと思うこと。私生活では、普通に結婚もできたし子供(一男一女)にも恵まれたし、俺を育ててくれた両親も見送ることができたし。

あと10年少し人生が残っているとすれば、何がやりたいか。元気に過ごしたいと思う。

最後に今思うこと。社会人として少しでも出来たかなあ～。

あ お い く ま のように、出来たらよかったと思うけど。

後藤新平：人を残して死ぬのは上(じょう) 一流のリーダーは、人を残す

3識のお話の一つ : 常識をもって、仕事を成し遂げる

- ・正直の頭に神宿る。 ・辛抱する木に金が生る。
- ・かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め (スーパーボランティア 尾島さん)



ベトナム海外視察研修で(2012.12.)

南和会 金毘羅参拝にて



和高専ホームカミングデーにて(2016.11.5～6)

南和会 リニア新幹線実験場にて



## 【和高専入学による自分形成とサラリーマン人生、そして今】

69B36 森下 純大

和歌山県生まれで和歌山育ち、長男で一人っ子の私は、中学までは特に何不自由なく平々凡々と暮らして来た。しかし、いつの間にかコミュニケーション能力を身につけ、社会に通じる知識・技術を習得し、早く家を飛び出し自立したいという思いが強くなった。

またその年時に和高専卒、一期生の知り合いが大企業に就職し、大阪本社に赴任したと聞き益々意を強くした。そして環境が良く、学業優先、実験・実習に多くの時間を割き全寮制の和高専を受験。運よく電気工学科に合格し、少し不安を抱きながら入学した。

学業終了後はクラブ活動にも参加し、食事も3食提供と寮生活を満喫した。また週一、夜には近くの道場に少林寺拳法を習得に行き、近隣の拳法仲間とコミュニケーションを深め、休日には白浜・勝浦への小旅行も慣行。

親元を離れ少しは寂しい思いもするかなとおもったが、物おじしない性格と廻りの人々に助けられ全くそんな思いもする事なく、学業もそこそこに2年を過ごした。

寮生活も経験し、周囲環境にも慣れ、地域住民とも難なく溶け込めそうな雰囲気の中、今度は一人暮らしを経験したく、知り合いから紹介を受け「野島」のお寺の空き部屋を下宿としてお借りし、毎日朝、お経を聞きながら通学するという環境になった。

そのお寺では、住職の息子さんが、中学生を対象に塾を開講しており、途中から私もお手伝いをする事となり、それまでちょっとサボっていた自分の学業に意欲が沸いた。

人に教える、人に伝える、人に解ってもらう難しさも感じながら、その時は自分でも工夫し、精一杯やったつもりだが決して満足できるものではなく、コミュニケーション能力のなさを痛感した。

この様な環境の中、和高専時代の学業生活が経過して行った訳だが、夏休み等長期休暇の折には、地元企業の花王や住金等でアルバイト募集を見つけては応募し、企業の中を覗いたり、学校がコンタクトしてくれた企業への体験入社・訪問等に積極参加し、自分形成、社会人としての人間形成の糧とした。

そして、そろそろ卒業年次と就職先決定の時期が近付いた頃、一期生で大阪本社の松下電工に就職した先輩が学校訪問され、企業の実情を得る機会を持てた。本社が大阪で学閥等もなく、CMに頻繁に登場する多くの商品を創出する企業でもないが、多くの工器用機器商品、制御機器を輩出し、ビル・建造物等の社会を支える一握を担う企業であり、比較的平均年齢が若く、年功序列もなさそうで在る事を知り、就職先の候補に決めた。

就職活動開始時期の早々に松下電工の募集要項が掲示された時は何も迷う事無く教務科に応募手続きをお願いした。そして運よく採用内定通知を得、松下電工（株）に入社。

入社後、初年度は全寮制で教育期間、社会人としての適性・心得、多くの部署での職務体験、希望配属先での職務体験、営業を含めユーザー調査等を叩きこまれた。配属先は照明事業部で照明器具及び電子バラスト（点灯回路）の開発設計、ビル、建物用、道路用、トンネル用と7年間多用途の照明器具開発に従事。



その後、省エネブームが到来し、大型ビル、大型建造物、多目的建造物の照明制御に携わり、そのころから制御システムの設計・構築の職務に携わる様になった

このころ益々省エネ・システムブームが高まり、松下電工に新たにシステム機器事業部が発足、何故か、人事から呼び出しを受け、発足のシステム機器事業部への転属を命じられた。メンバーは各部署からの転属者ばかりでそれぞれのそれなりのエキスパートばかり。

システム機器事業部発足の理由は、東京ディズニーランドの照明制御システム、広域防災制御システムの受注が裏にあった様に思う。

担当したのは、防災制御システムのシステム設計と構築・搬入。2か月間現場常駐し、設計事務所、ゼネコン、サブコンと同事務所で愚痴を言い合い交流したのは、楽しい懐かしい思い出となりました。また東京ディズニーランド竣工時、関連企業としてオープニングセレモニーに招待された時は感慨深かった。

その後は、大型ビル、商業施設等の電力・動力・空調・照明等の設備の監視、制御を中央で監視・制御する中央監視システム、セキュリティシステムを全国展開し、システムエンジニアとして全国を飛び廻った。

この頃はもう結婚もし、子供も授かり、バブルも経験し、家庭はあまり振返らなかったが、深夜残業の連続、休日出勤の連続にも関わらず楽しく職務に邁進していた。

そして事業部の部長職にも就いた頃、転機が訪れた。東京汐留の自社ビル建設も伴い、首都圏大規模再開発が始まった。「省エネ及び快適を科学する」の会社方針のもと、首都圏再開発ビル・商業施設ビルの設備監視・制御システム、セキュリティシステム等の受注推進の為、首都圏に拠点を移し、システムエンジニア部門のメンバーを引き連れ転勤した。勿論、単身赴任で・・・。

あまり物おじせず何事もポジティブに受け止める性格も幸いしてか、多少不安もあったが、森ビル、三菱地所、住友不動産等大手デベロッパー、大手ゼネコン、大手サブコン等と係りを持ち、叩かれながら大いに鍛えられ、クレーム対応も徹夜で何度も経験したが、六本木ヒルズ、汐留の竣工したビル群を眺めた時は感慨深く、この時期がサラリーマン人生で最も充実した最高の期間だったと思っている。

約5年後大阪に戻り、今度は、システム商品の物造り側の製造、生産管理の責任者を命じられ、暫く大阪勤務後、製造・生産管理の拠点である三重県津市に転勤。二度目の単身赴任、一度目は東京、二度目は、山あり、海ありの三重県、本当に癒される環境で当時の最先端の物造りも経験させてもらった。

これで入社してから部門の、設計、システムエンジニア、現場搬入・調整、製造、生産管理とサラリーマンとしてほぼ全ての職種の経験をした。そして最後は、事業部の海外事業推進部に所属し、中国、韓国、台湾等を担当し、システム商品の受注推進に奔走した。

この頃から別居していた両親の雲行きが怪しくなり、自分達だけでは自活が難しくなり、支援の必要性を感じた私は、家内に相談し、親孝行？のつもりで同居する旨を伝え、定年を二年近く残し、何の未練もなく早期退職をした。

初期の頃は、そんなに負担とストレスは感じなかったが、年月が経過するにつれ、介護の大変さが身に染みる。大変さは、TV やドラマの世界では時々見る事もあったが、人や環境の違いはあれ、やはり現実には厳しい。

今はもうかなり慣れ、「明日は我が身」と思いながら、合間には、地区の農家さんから菜園をお借りし、季節の野菜を育てたり、OB と陶芸クラブに通ったりして、ストレスを解消している。

家内の協力なしには、この10年やってこれなかったと思うが、この先九十八歳の母を無事見送った後は、家内と二人で日本の名所・旧跡、穴場を計画的に巡り、健康に留意しながら、人生100年時代、子供・孫に迷惑を掛けない事も考慮し、長い第二の人生を満喫したいと思う。

## 半世紀の人生を追想（入学、就職、そしてリタイア後の生活）

2023.11.08 記



69B37  
森本 博士  
神戸市北区 在住

### 【和高専受験】

中学校3年の時に進学に関して担任の先生から「和歌山高専」を勧められました。我が家は母子家庭だったので恐らく学費の負担軽減を考えて勧めたのだと思います。

それまでは近くの県立高校から大学に進むものと漠然と思っていたのと、高専という学校がどういう学校かも知らなかったのが不安が有りましたが国立で寄宿寮も有り学費が安いとの事でしたので受験することにしました。

元々数学、理科が得意でそれを活かせる仕事がしたいとの希望が有り、建築関係をと考えていましたが当時の和歌山高専には「土木工学科」しか無く、学科名から何となく「土方」のイメージが有り（中学生の時のイメージで土木科の皆さんすみません）次の希望の「電気工学科」を受験することにしました。

幸い合格でき、15歳で初めて親元を離れ柑紀寮に入寮。

### 【和高専時代】

高専での思い出は、ワンゲル部に一時期入っていて15kgのリュックを背負い高専の前の小山での練習でクタクタになった事や、天文クラブで機械工学科の先輩達と望遠鏡を星の動きに併せて追尾する「赤道儀」という機材の制作に取り組んだり、夜中に屋上で星の撮影をしたりしたことが懐かしく思い出されます。

撮影に使ったカメラは当時としては高価だった“一眼レフカメラ”で母親にねだって買って貰った物でした。今から考えてみると大変な思いで工面して買ってくれたカメラだと母親に感謝の気持ちが湧いてきます。

初めて親元を離れた事もあり1、2年生の頃は毎週末和歌山市吹上の実家に帰省していました。南海バスに勤務していた親戚がおり“無料のバス券”を年に数枚貰っていたので学園前からバスで2時間余りかけて帰省することが度々有りました。

小さい時から車酔いに悩んでいて小中学校の修学旅行ではバス利用で大変つらい思いをしていたのですが、交通費節約でやむを得ずバスを利用していました。ヨロヨロになりながらのバス乗車でしたが幸いにも1年も経つと車酔いをしなくなりました。

学校では「授業はこんなものだとただ漫然と勉強していた」だけですが、後に就職してから大卒の同僚などから、専門科目が選択できるなどの大学の仕組みを知るにつけ、やはり学生数の規模に依り習得できる専門範囲、知識量の差を感じたものでした。

3年に進学しても家計を助けるため、下宿せず、ずーっと寮生活を続けた5年間でした。卒業後3、4回母校を訪ねました。地震対策の為か正面のピロティが塞がれ、寮の方に行くところ？にか、ロボコンの建物が出来ていた様に記憶しています。

## 【就職に向けて】

就職は実家に近い大阪近辺の電機メーカーと決めていたので「シャープ」、「松下電器」、「三洋電機」を候補に、挑戦しようと考えていました。

一番の希望は「シャープ」でしたが確か4年？だったかの時の企業研修をシャープに希望を出していたものの、夏休み直前に「今年は採用無し」との連絡を受け急遽、谷口先生の御友人が経営している「コモタ技研」というベンチャー会社を紹介してもらい、なんとか研修をする事が出来ました。（今思い返しても冷や汗ものです）

そんな事が有り「シャープ」への意欲が削がれ5年の時だったかの会社訪問で「松下電器」を見学した時の印象が大変良く、あわせて松下に就職していた3期生の先輩の話聞く機会があり「松下電器」に就職したいとの思いが高まってきました。

松下電器は事業範囲が広く、面接時に希望の事業部を問われた時「ステレオ事業部」希望ですと、答え「第二希望は？」と問われても、「ステレオ事業部以外希望は有りません」と生意気にも答えたのを今でも覚えています。

これは学生時代に教えて貰った電気回路に大変興味を持ち、自分も回路設計をしてみたいと思っていたからで当時、松下には「ステレオ」、「ラジオ」、「録音機」の3事業部がこの仕事に携われそうだったので「ステレオ事業部」に絞り希望を貫きました。

私だけで無くその頃の関東出身者は神奈川に有った子会社の「松下通信工業」、関西出身者は「ステレオ事業部」への配属希望が多く、それぞれ50名ほど希望者がいたそうです。その後、配属先通知をもらったところ「ステレオ事業部」と記載、この様にして希望の事業部に配属されました。（後に人事に聞くと17名配属、倍率3倍との事でした）

## 【松下電器での勤務】

ステレオ事業部に配属になり、最初は「工技（工場技術）」という、希望していた設計課では無く設計部門が設計したステレオを工場で量産した時にバラツキで不良品が出ないかの「主に量産品質を評価、検討する部門」にて仕事を始めました。

数年間この仕事をしていると、自分だったら「この様な設計をするのに」と他人の設計したものに不満を感じてきて、上司に「設計課」への希望を3年程言い続けました。

有るとき、事業部で初の電池駆動も出来るステレオの新製品開発（当時の事業部制は厳格で電池駆動の製品はラジオ事業部でしか開発できなかった）が有り、それを担当していた設計者が鬱で自死した事件がありました。

（コンセントからだけ電源を得て動作する機器と比較して電池駆動もできる機器では設計の

難易度はかなり高く) その開発のカバーの為に数人のメンバーが投入されることになり、私もその一人に選ばれました。

数ヶ月後、無事開発が終わり、ほとんどのメンバーが元の職場に戻りましたが、その時の業務が評価されたのか、移籍を希望していたのを聞いて貰えたのか不明ですが私だけ残る事になりこれを機に設計課に移籍。

設計課ではできの悪い上司に仕え苦労した時の事や反対に和歌山出身の課長の下で同郷出身の関係からか良く面倒を見て貰い、他社対抗の超短期の新製品開発で徹夜明けした時には自宅に呼んで頂き食事をさせて貰ったり (まだ独身で公団住まいの時期) と大変かわいがって貰った事などを思い出します。

以降、単品コンポ、ミニコン、ホームシアターなど多くの形態のステレオの設計を30年程担当し、数多くの新製品開発を経験しました。

余談ですが、数年前にTVを見ていた時のこと。なんと20年くらいも前に私が設計したミニコンが整理ダンスの上に置かれて現役で使われている場面でした。これには大変感動して「わぁ、気に入って大事に使ってくれているんや」と、その日は一日中気持ちの良い時間を過ごせました。

この間で特に印象に残っているのはあるMDミニコンの設計をしていた時の事です。

この新製品には著作権保護の為に、高度な暗号化の仕組みを搭載したLSIを使用することが必要で、当時生産工場がマレーシアに有った事も関係して回路図、プリント基板などの資料・部品がCOCOM規制該当品(対共産圏輸出統制の該当)で有ることが判明し工場側に渡すことが出来なく成った事が有りました。

戦略物資では無い事の証明・輸出許可を貰いに当時の通産省に出張したことが有りました。仕事で官庁に行くのは初めてだったので果たして許可が下りるのか不安な気持ちで東京霞ヶ関に向かったのを覚えています。

そうした経験などもしている中でミニコンの開発責任者を務めた後、設計部門を離れ、原価管理部門の管理職として業務をする事となりました。

## 【三洋電機に出向】

2010年頃に三洋電機を子会社化する動きがあり、合併までに松下電器の業務推進方式を理解してもらうべく松下電器から三洋本社に4人の出向者の選定があり、原価管理手法で松下社内で最も進んでいた私の職場に光が当たり私が出向することとなりました。

(三洋電機経営体質強化本部 原価管理部、担当部長)

約1年間、三洋電機の全国各地の地区拠点を廻り松下電器の原価管理の手法を伝えました。

(この間 2011/3/11 午後、三洋群馬工場に出張中に東北の大震災に遭遇し、帰宅出来ず、翌日12時間程かかって、大阪に帰宅出来た経験をしました)

なお、1年間勤務していた三洋電機本社ビルはその後、守口市に売却され現在は守口市役所として使用されており、看板の掛け替えなどで当時の面影は無くなっています。

## 【松下電器を早期退職】

2011年4月に松下電器の元の職場に帰任し、「さあ、定年までの最後の仕上げを」と意気込んでいた夏休み明けの9月に、管理職全員集められ「業績悪化で57歳以上の管理職の皆さんは全員早期退職を」と告げられました。

尼崎に建設していた「プラズマディスプレイの工場」がほとんど稼働すること無く、閉鎖。約2000億も投資した工場が稼働せず、ほぼ新品の設備もスクラップ同然の価格で売却する損失の対策で、約2千数百名のリストラとなった訳です。

松下電器での業務はオーディオ機器の設計がメインでしたが単に設計業務だけで無く「どんな製品をいつ開発し、発売すればヒットするか」と言ったマーケティングや「関係部署の協力をどの様に得て短期開発に成功するか」など人間関係の進め方など様々な事を学んで来られたことに感謝しつつも、リストラの話を聞き、自分の部署は利益の出している部門なのに何故TV事業の赤字の責任を負わされるのかといった疑問が複雑に巡ってきました。

しかし会社の大きな経営判断で従うしか無く多少の退職金の割り増しを貰い2011年12月末に37年8ヶ月務めた松下電器を退職。

## 【再就職に向けて】

松下勤務時は長時間労働など関係なく月60時間超えの残業は当たり前で、それから解放されたのでホッとした一面、退職したのが57歳で少し早すぎると思ひ、もう少し働こうと考えました。（年金も40年に足りず金銭面で将来の不安があったのが大きい）

会社都合の退職なので雇用保険は満額のほぼ1年分出たのと、CADなどが出来たので

「まあ、給与などの条件を下げればどこかに就職先は有るやろう」と呑気にハローワークに通っていたところ、やはり60前のおっさんの職探しは厳しいのが現実。

電機関係はもう懲り懲りとの思いが沸いてきて、不動産関係の業種で結構募集が多かったのでそちらで探すと、資格保有が要件なのが判明。

まあ、要るなら取るしか無いと「宅建」、「管理業務主任者」など約半年で取得。

この資格を履歴書に書くと大阪中央区のマンション管理会社から面談の連絡があり面接を受けたところ内定をもらいました。

元気なら68歳くらいまで勤められるとの事で、ここで働こうかと決めていたところ、

ちょっとした行き違いで疑念を持ち始めネットで色々調べたところ俗に言う「ブラック」な印象が増加してきて「ここヤバいかも」と嫌になってきて辞退。

## 【同志社大学に再就職】

急遽、再度の就職先探しを始めたところ、ちょっと遠いが同志社大学で“ラーニング・コモンズ”という新しい学生の為の施設を建設していて、そこで学生にパソコンやAV機器の使い方を教える職員を募集中との情報を得て早速応募。面談で話す中ちょうど松下時代に私が経験してきた事がバッチリ当てはまり、併せて導入している機材がPanasonic製だったことも有り即採用が決定。退職後1年余りでやっと再就職先が決まりました。

この様に松下時代の知識で難なく業務ができたので改めて何か勉強する必要も無く勤務時間の短かさや、夏休みも長くて大変楽な職場に再就職出来ました。

若い学生相手に、特に女子学生相手に教えている時など大変楽しく過ごせたものです。大学には進学できていませんでしたが学生の立場では無く運営側から大学内部を経験でき、今までに知らなかった事に触れられ貴重な経験が出来ました。

ところが慣れてきた矢先の63歳頃になり、「そろそろリタイアを」との考えが湧いてきました。通勤が1時間以上かかるのと、家内との旅行・温泉巡りも楽しみたいとの想いが強くなってきて定年前にリタイアを決意。

年金も私学共済というほぼ厚生年金と同様の年金にも加入できていたので松下時代の不足分の穴埋めが出来たのも理由でした。

## 【リタイア後の生活】

半年に一回程度の頻度で夫婦で旅行に行くなどのんびりとして楽しい生活をしていましたが普段の生活がだんだん退屈になってきて「いかん、このままではボケてしまう」と感じ始めネットで色々情報を見ている内に「そうや、資格試験でも挑戦して自分のスキルレベルがどの程度か確認してみよう」と思い立ち、各種資格取得に挑戦することにしました。

不動産関係の資格は前述の様にいくつか取っていたので基本に返り電気関係の資格は取っていなかったのが学生時代に挑戦しかけて途中挫折していた無線関係の資格取得を手始めに

・第一級アマチュア無線技士 ・第一級陸上無線技術士 ・第一級海上無線通信士  
等を取得（これらの資格で放送局や大型船舶での有資格業務が可能）

引き続き強電関係もと

・電気工事士 ・電験三種  
などを取得しました。

ところで、大阪枚方市の自宅は終の棲家と決め購入した家でしたが、子供が車で帰省した時など駐車場が1台分しか無く不便だったのと2018年の台風で屋根が傷んで補修にかなりの費用がかかる事などの理由で引っ越しを決意。

温泉地巡りで気に入っていた有馬温泉が有る神戸市北区が土地も安く、希望の間取りの家が見つかった事も有り全く縁もゆかりも無い地域でしたが2019年夏に現在の住所地に引っ越ししてきました。

ここ神戸市北区は六甲山系の中に位置し、素人でも手頃な山々が有り体力作り（と言うより維持）を目的として月一のハイキングに出かけたりしています。

また大阪に比べて光害も少ないので星が綺麗に見え学生時代から続いている天文の趣味の一環で晴れた夜には望遠鏡を出して木星や土星などの観望も行っています。

コロナの関係でここに2、3年は旅行も近場しか行っていなかったのですがそろそろ状況が好転してきているのでまた温泉地巡りを再開しようかと考えている今日この頃です。

入学から半世紀の拙い思い出をこの機会にまとめました。ご笑覧願えたら幸いです。

## 追記

現在の若い人達には1つの会社に終身雇用されること無く、スキルアップして都度人生の節目で新しい仕事に挑戦するスタイルが広まってきていると感じます。今、70歳を目前にして自分自身この「和高専入学、卒業、松下電器に就職、同志社大学に再就職」と過ごした50年余りを振り返ってみると本当にこの人生が良かったのかどうかハッキリと結論は出ていません。それは「三洋電機」に就職していたらどうなっていたか（三洋電機はもう存在しない）、第一希望だった「シャープ」に就職していたら？（シャープはもう外資傘下）など50年も経過すると世の中が大きく変化してきたからです。

今回寄稿文を書く機会を与えていただき色々と思いを返していると「あの時こうしていれば良かったのでは？」とか「あちらを選択していればこんな風に成れていたのでは」とか様々な想像を巡らす事が有りました。

しかし過去には戻れません。これから何歳まで元気に生活していけるか判りませんが、最後に悔いること無く人生を振り返れる様に今後も前向きに過ごして行こうと考えています。



## あれから 50 年（69B50 周年記念誌に寄せて）

69B39 弓倉 忠昭

インターンシップは家から通えるということで御坊の電電公社にした。この時に自分には公務員的な職場は向かなく、一般企業の方が良いだろうと考えた。

その後就職先を決めるにあたりリクルートの企業紹介の冊子に目を通してある時、タケダ理研工業（現アドバンテスト）のところを読むとなんか面白そうな会社だなど思いがあり親に話したところ、高専ならもっと大きな会社に行けるのにとという反応。しかし最終的には自分の考えを押し通してタケダ理研工業に就職した。

良かったのか？悪かったのか？まずは入社した年に起こったオイルショックの影響で会社の売上は低迷。富士通の援助を受け何とか会社は存続したが、2年間はまともにボーナスを貰えず、一時は給与の分割支給ということさえあった。転職しようかなと思った時もあったが何とか思いとどまり、そうこうしているうちに会社の業績も良くなってきて、アドバンテストに社名変更するころに東証一部上場して、かなり高い株価になり全国紙に記事が掲載されたりしたことがあったからか、親も手のひらを返したように先見の明があったとか言い出す始末。

仕事はというと、院卒は別として会社の方針として大学卒もまずは製造部門を何年か経験して能力に応じて開発へ異動させるスタイルで、私も4年間製造の調整課と技術課での勤務後、使った方もいるかもしれないが、スペクトラム・アナライザーという高周波用の測定器の開発業務に携わる。その後高周波部品とかの特性を測定するネットワーク・アナライザーの開発を経て、高周波ICとかモジュールの特性を検査するRFテスターの開発業務に携わる。

大企業であれば私のような能力の者ならなかなか開発へは配属してもらえなかったかもしれないが、そういう意味ではタケダ理研のような会社へ就職して良かったのかな。

58歳の時に品質保証部門へ異動。開発業務を三十数年間やったけれど、管理職の話があった時に断って1エンジニアとして開発業務を続けていた方が、もしかしたら良かったかなと思うことが今もある。

60歳の定年時にスパッと会社を辞めて今までとは違うことをやりたかったのだが、我々の学年から厚生年金の報酬比例部分の支給が61歳からになり、それがないと金銭的にきびしいので、1年間は我慢して囑託で会社に残ることにした。

61歳で退職して何を始めたかということ、知り合いがやっていて面白そうだなと思っていた遺跡発掘作業。夏は結構大変だけれど、それを除けば作業は気楽で面白い。

雇用される年齢は71歳になるまでで、体力と気力が持つ限りやりたいと思っている。

私生活はというと、息子二人のところに孫がそれぞれ二人と一人で三人。今年のゴールデンウィークも我が家へ集まって、3家族9人でバーベキュー。優しい爺ちゃんをやっていました。こんなところですかね。

皆さんも体に気をつけて残りの人生をエンジョイしてください。

3年生の旅行で?



高専祭でバザー...



高専祭で演劇...



高津尾でキャンプ...





50年前の雄姿 (おまけ)



50年の歳月を経て...

あの頃



50年???

最近



30年???



Madama 和高専応援歌 作詞 栗山重子 作曲 佐佐木隆司

(1) 高専の地は、  
あゝ戦はる 批判る  
吾等朝に 誓ひあり

(2) 高専の地は、  
あゝ戦はる 批判る  
吾等朝に 誓ひあり

## 編集後記

和高専電気69B同窓会は、昭和49年に卒業後、高瀬が幹事役を引き受けて頂き、毎年正月の3日に和歌山市内新内（アロチ）の「ちひろ」にて会費1万円の同窓会を開催。

毎年10名～20名の参加を頂き、約20年間継続してきました。

その後、幹事役は谷本に交代し、同じく正月の3日に和歌山駅前の居酒屋にて10名前後で細々と継続してきましたが、2020年1月から同窓会世話役を岸本・寺井・蒔田の3名で引継いで現在に至っています。

新型コロナ発生により恒例の同窓会は出来ず、LINE テレビ会議での意見交換会に限られたが、初めてのテレビ会議で蒔田の発声…『70歳、卒業50年となる記念すべき年に大々的な69B同窓会をやろうではないか!』…に岩畑と谷本も賛同して準備委員会を発足し、約2年半かけて計画・準備を進めました。本記念寄稿集も当初は皆さんの自由な思いを投稿頂きホッチキス止め…程度で募集しましたが、原稿が届くにつれて「表紙」や「写真」も付けて冊子に…との声も高まり21名の方からの原稿と懐かしい写真を提供して頂きました、有難うございました。

書式等は全てフリーで募集したので、寄稿頂いた原稿はレイアウト・フォント等様々でしたが、編集印刷費用をできるだけ抑えるため、文字数・行数・フォント等を統一することとしました。この作業の影響で、頂いた原稿イメージと完成品に多少相違があると感じる方が居るかもしれませんが、ご理解ご容赦下さい。

之までの活動や寄稿集作成への思いについて各委員の声を以下に記し、編集後記とします。

### 【活動を振り返って】

岸本： 幹事の一人と言われるにはサボってばかりであまりにも恥ずかしい。ただ、幹事の特権で皆さんの原稿を一足先に読ませていただき、人生の荒波を越えてこられたそれぞれの思いに感じ入りました。そして、両親や祖父母にも時代こそ違え同じような思いがあったのだろうな、と。ただ、ゆっくり聞いてみたくなった時には親はもういない。人生とはそんなものなのかもしれない。

谷本： 寄稿文は、私の遺稿文かも・・・(笑)・・・幼少の孫達が大人になった頃一度読んでくれたら嬉しい・・・。そんな思いを込めて書きました。勿論、現役の和高専就活生にも読んで頂いて参考になればなお嬉しい・・・。

寺井： 飲み会世話役の延長として安易な気持ちで始めたが、3カ月周期の検討会の日程調整と実施結果の共有は予想以上に手間がかかった。69Bメンバー全員との連絡を目標に取り組み、久々のメンバーとも沢山交流させて頂きながら寄稿文を通じて学生時代が鮮明に蘇ることも・・・、意見交換の難しさに一喜一憂・・・、貴重な経験に感謝！

蒔田： 私の提案で、一区切りとしての卒業50年、70歳に記念同窓会をやろうとの思いに、賛同してくれた他の準備委員の方々に感謝申し上げると共に、それに加えてお寄せいただいた皆様の近況及び寄稿を感慨深く懐かしさに触れ、今後の69B同窓生皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。